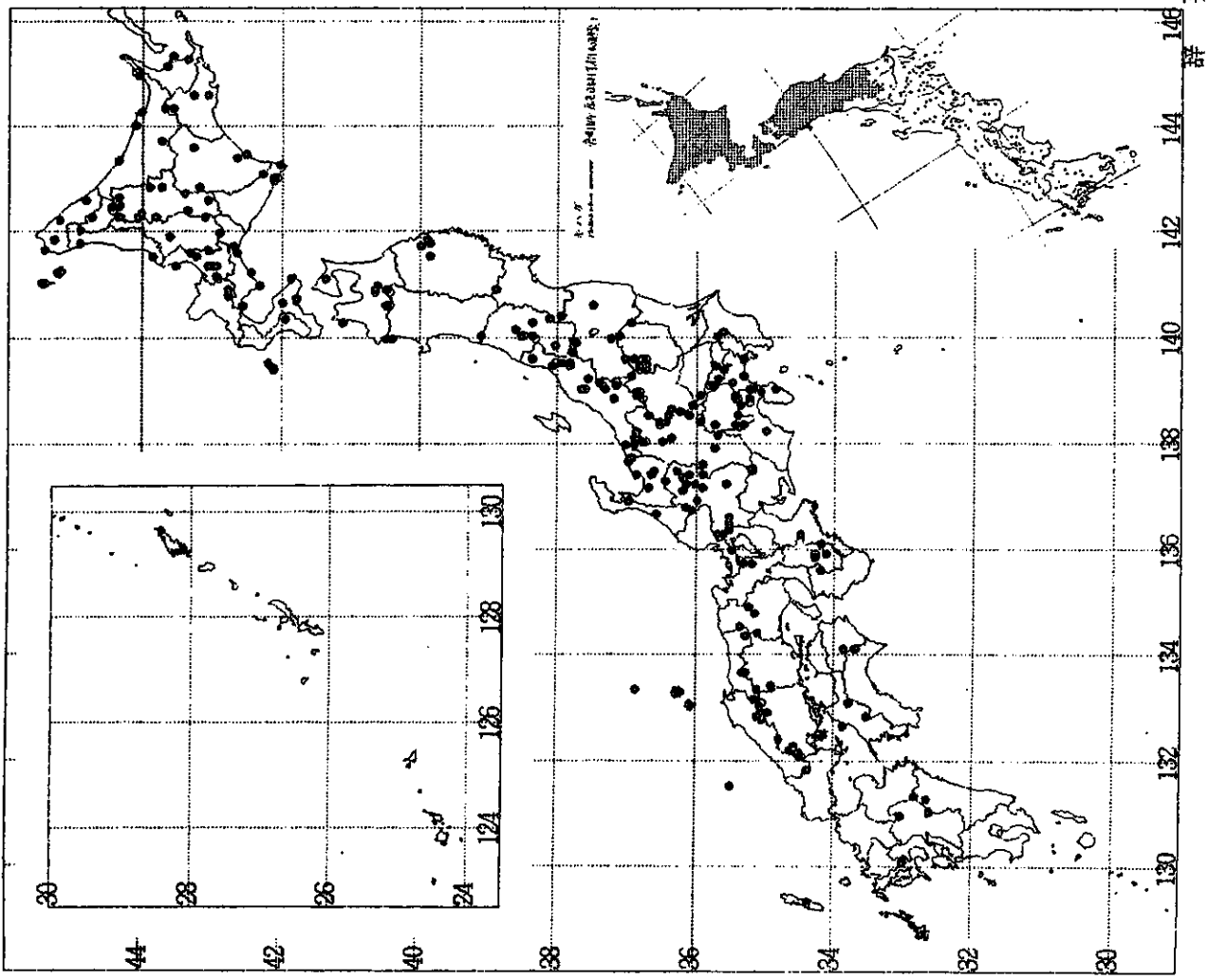


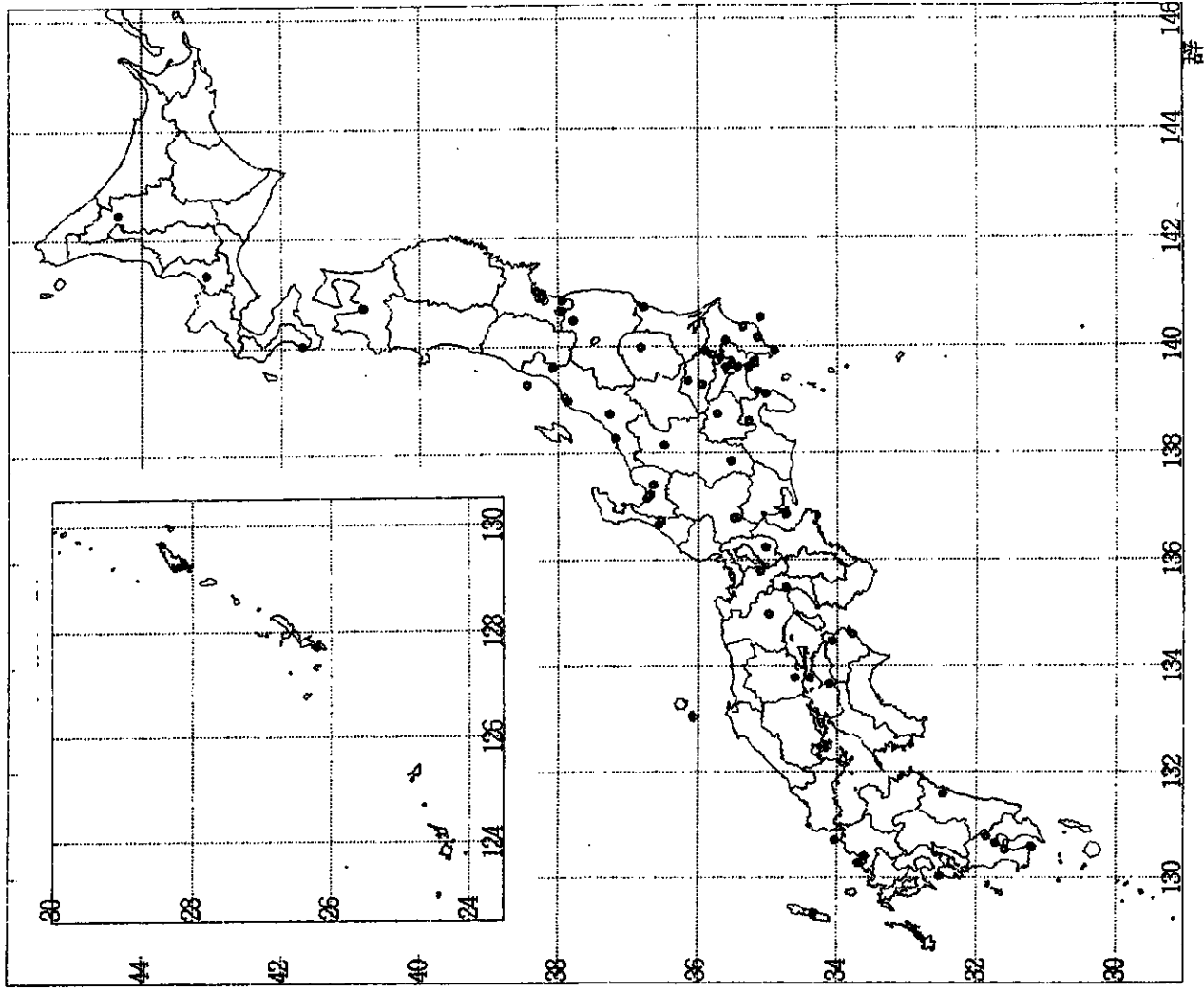
1998/11/01 21:25:54

緯度 Pnt= 155 Rec= 366



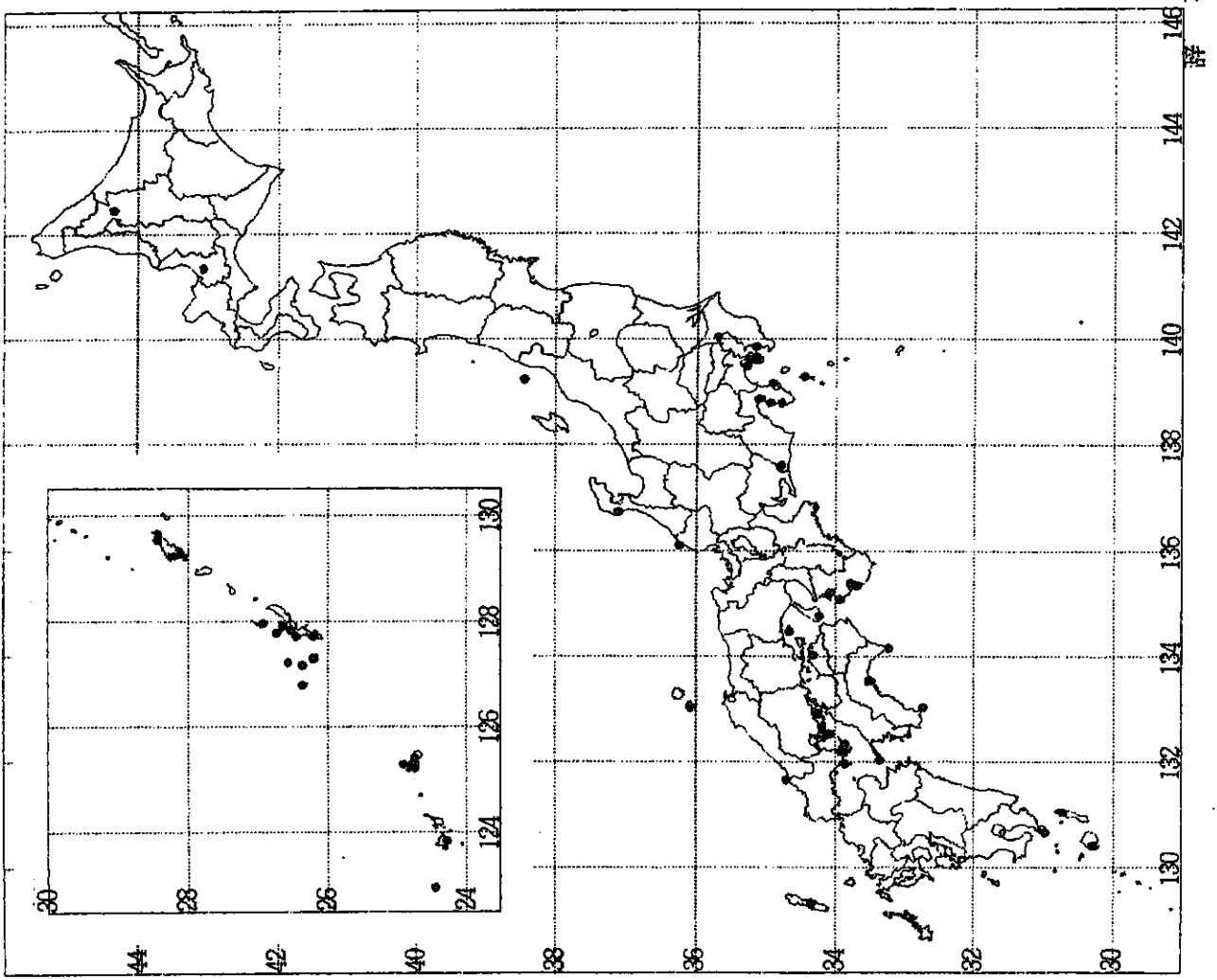
1998/11/01 22:03:37

経度 Pnt= 26 Rec= 87



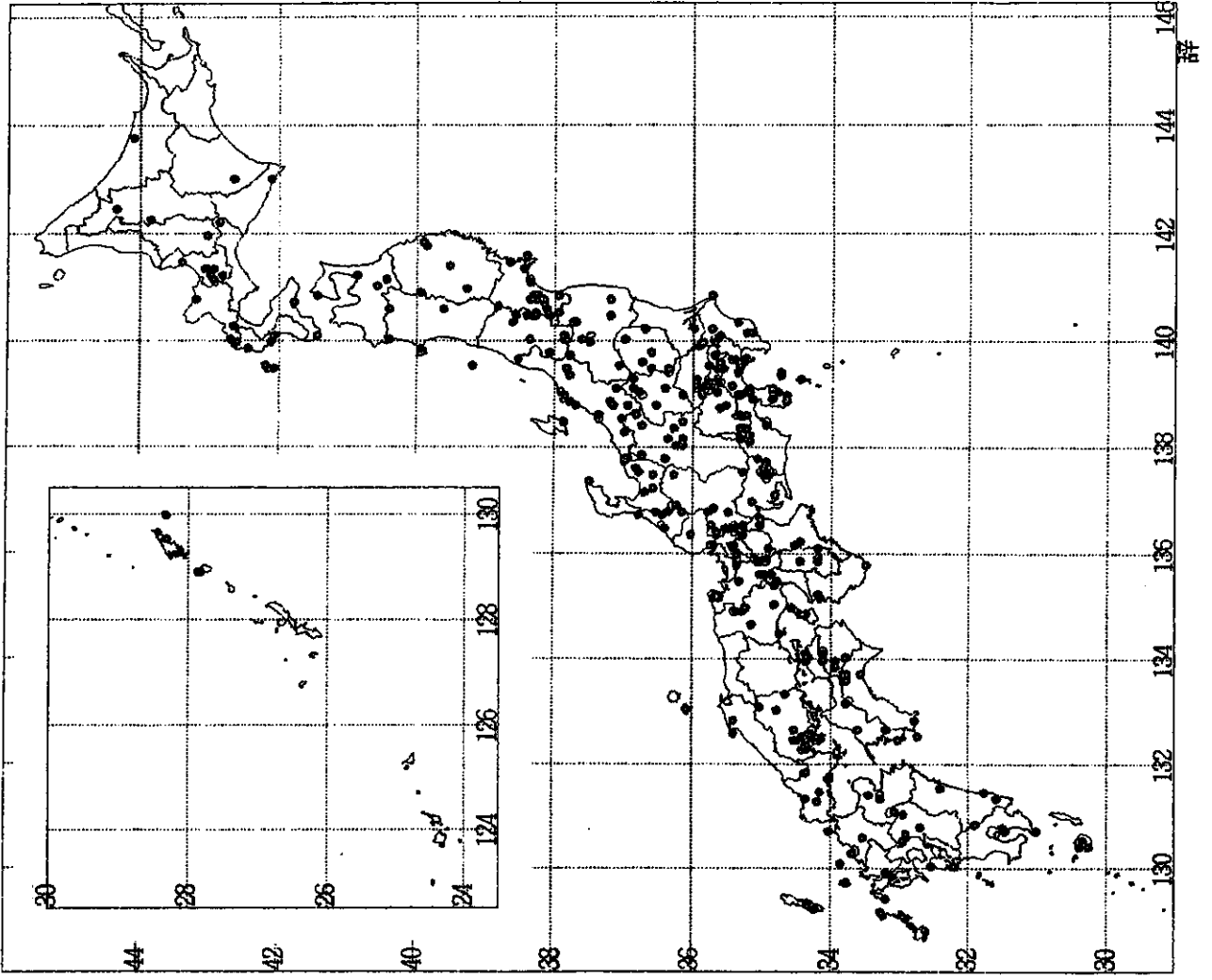
398/11/01 17:21:50

クサギがウ Pnt= 4 Rec= 82



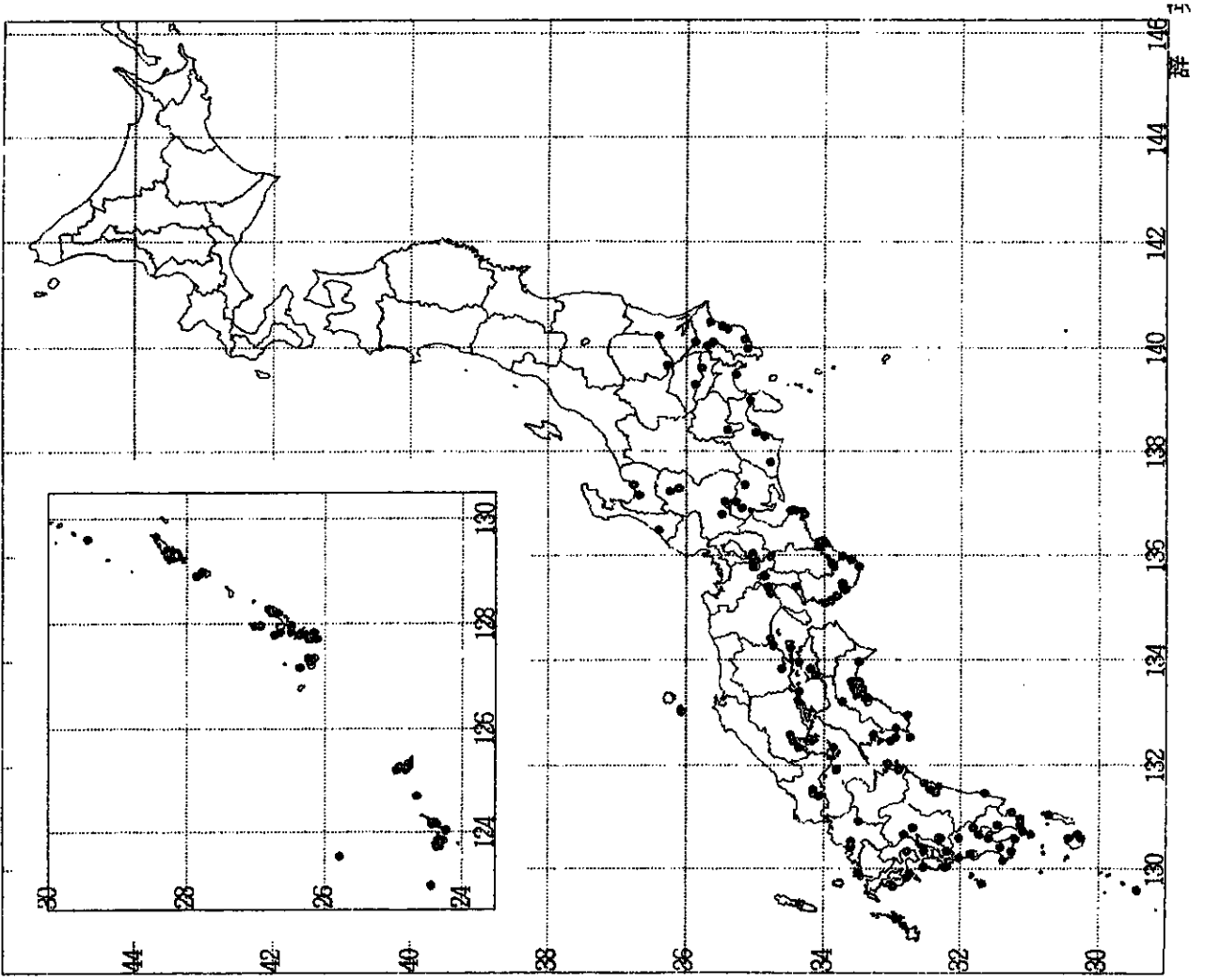
1998/11/01 14:11:53

クサギ Pnt= 119 Rec= 434



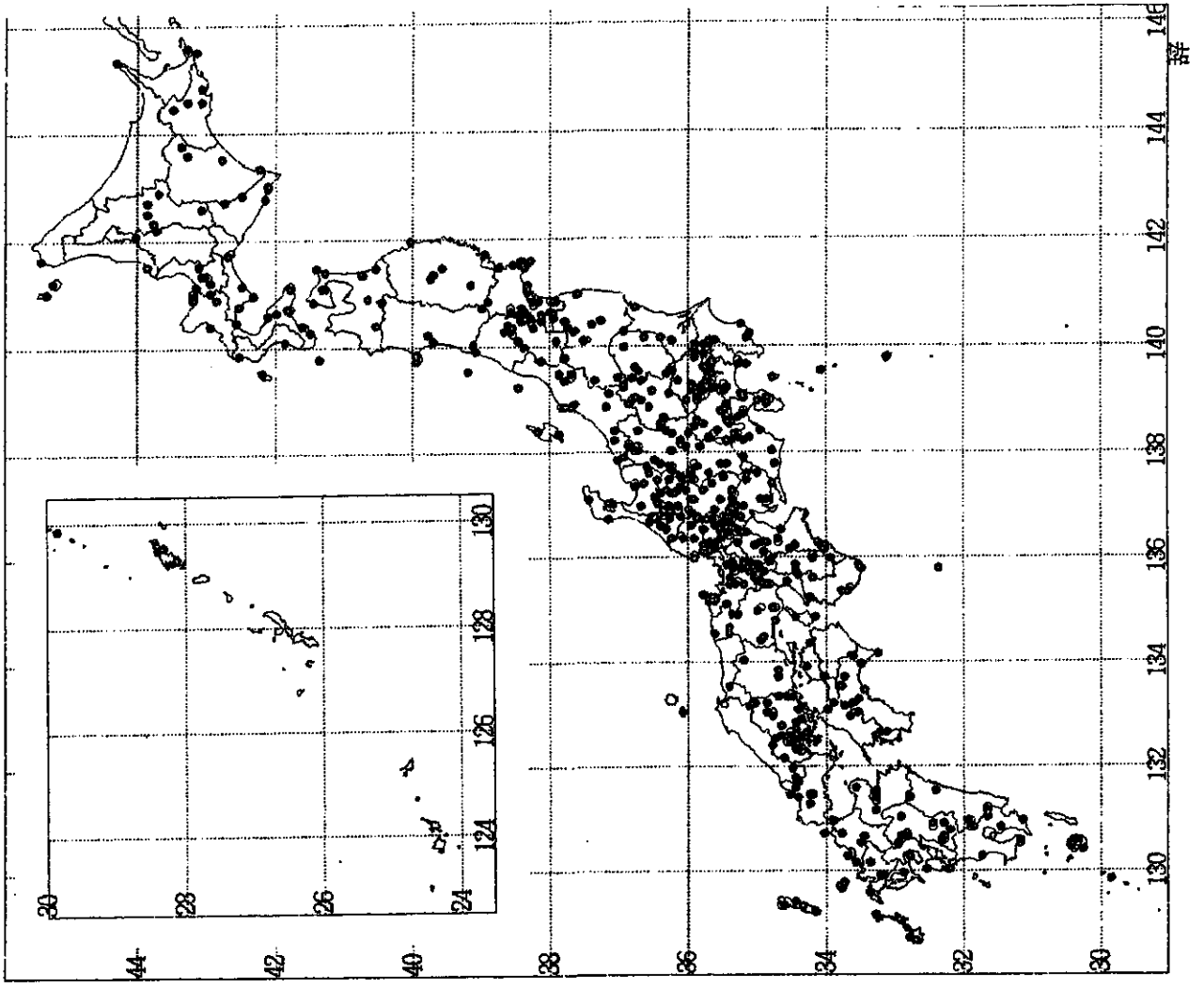
98/11/01 20:54:30

クナシ Pnt= 2 Rec= 240



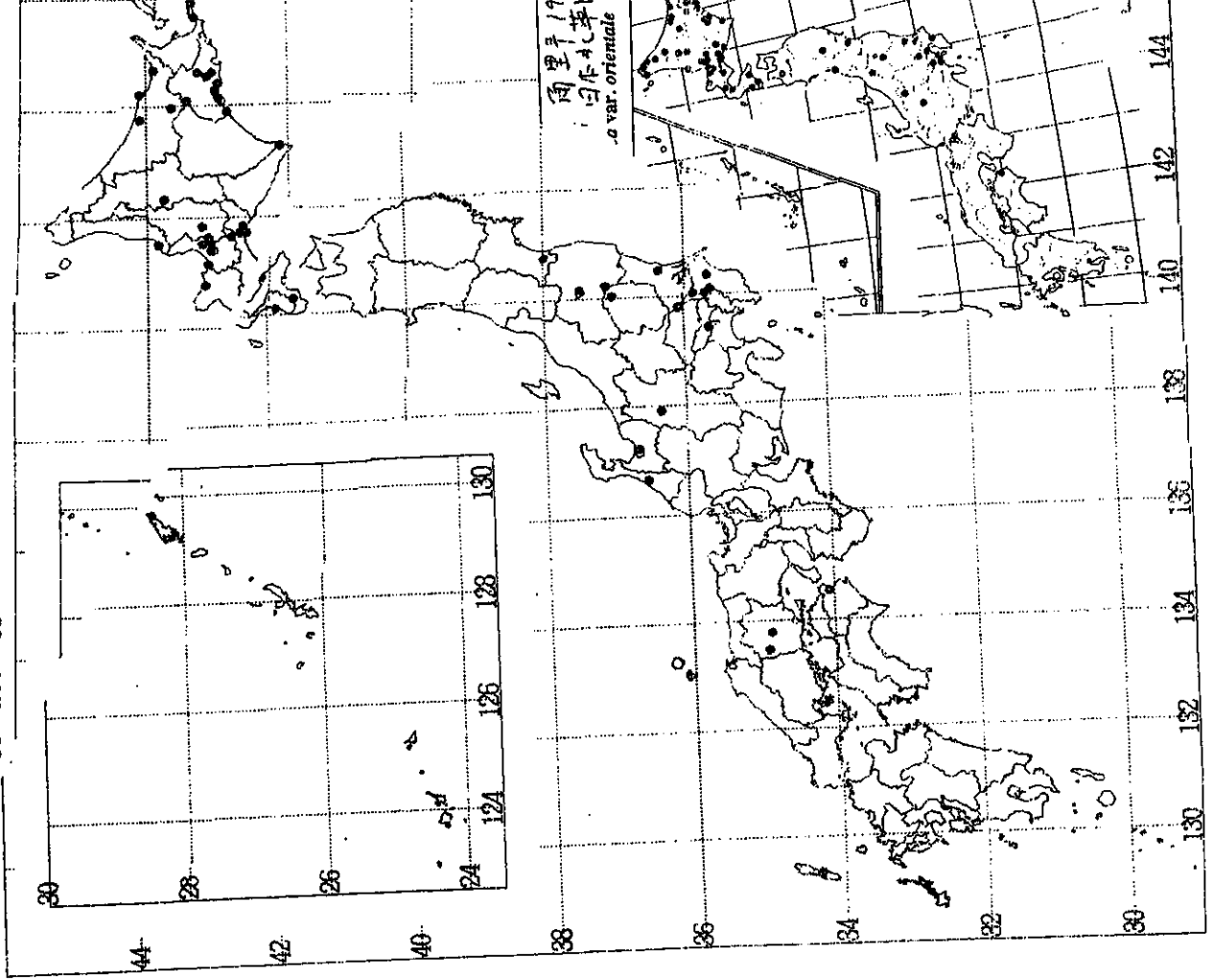
1998/11/01 16:05:47

クナシヨウカ Pnt= 185 Rec= 811



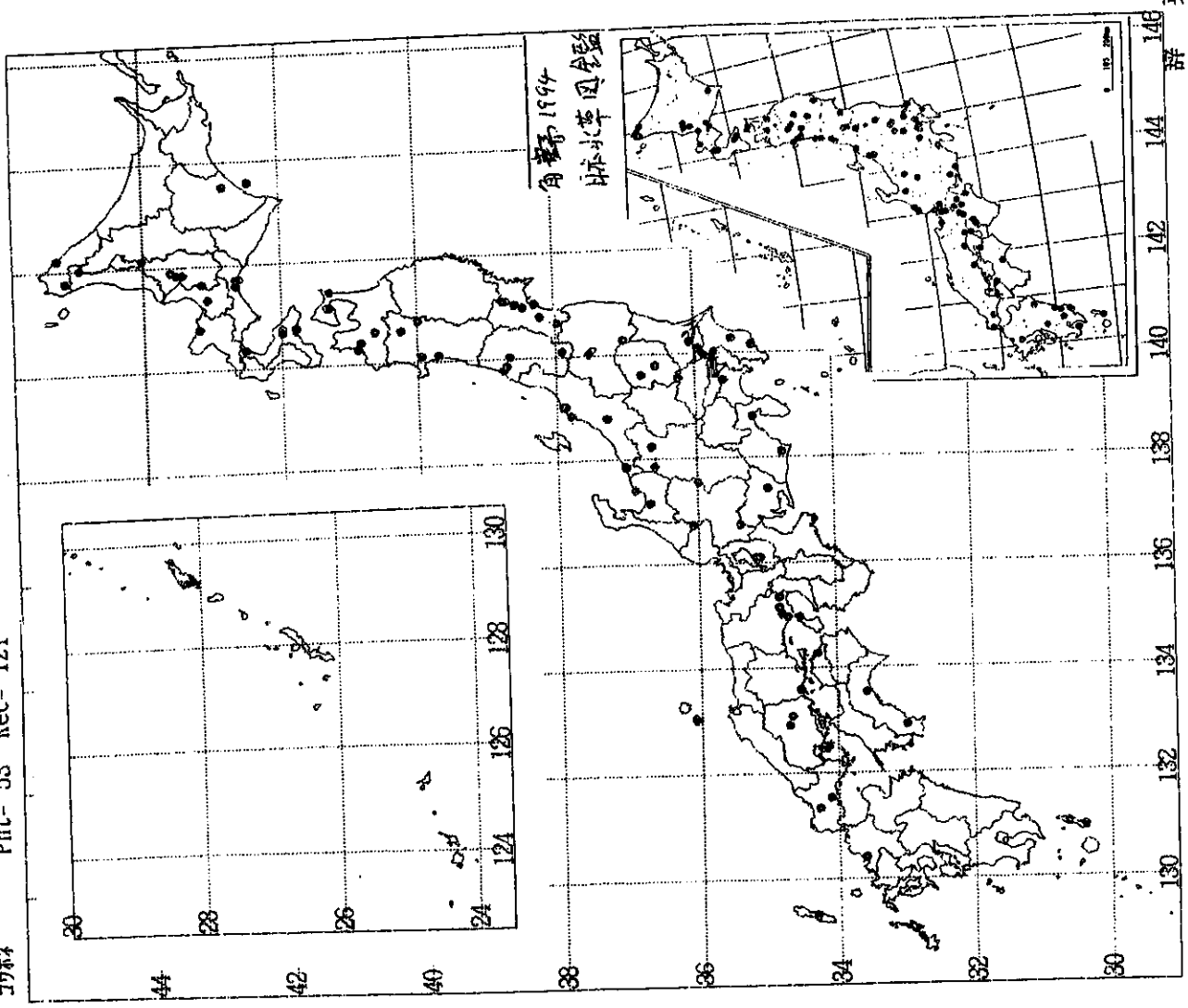
1998/11/02 09:26:38

サジガサノカ I. 44 Rec= 69



998/11/01 19:02:33

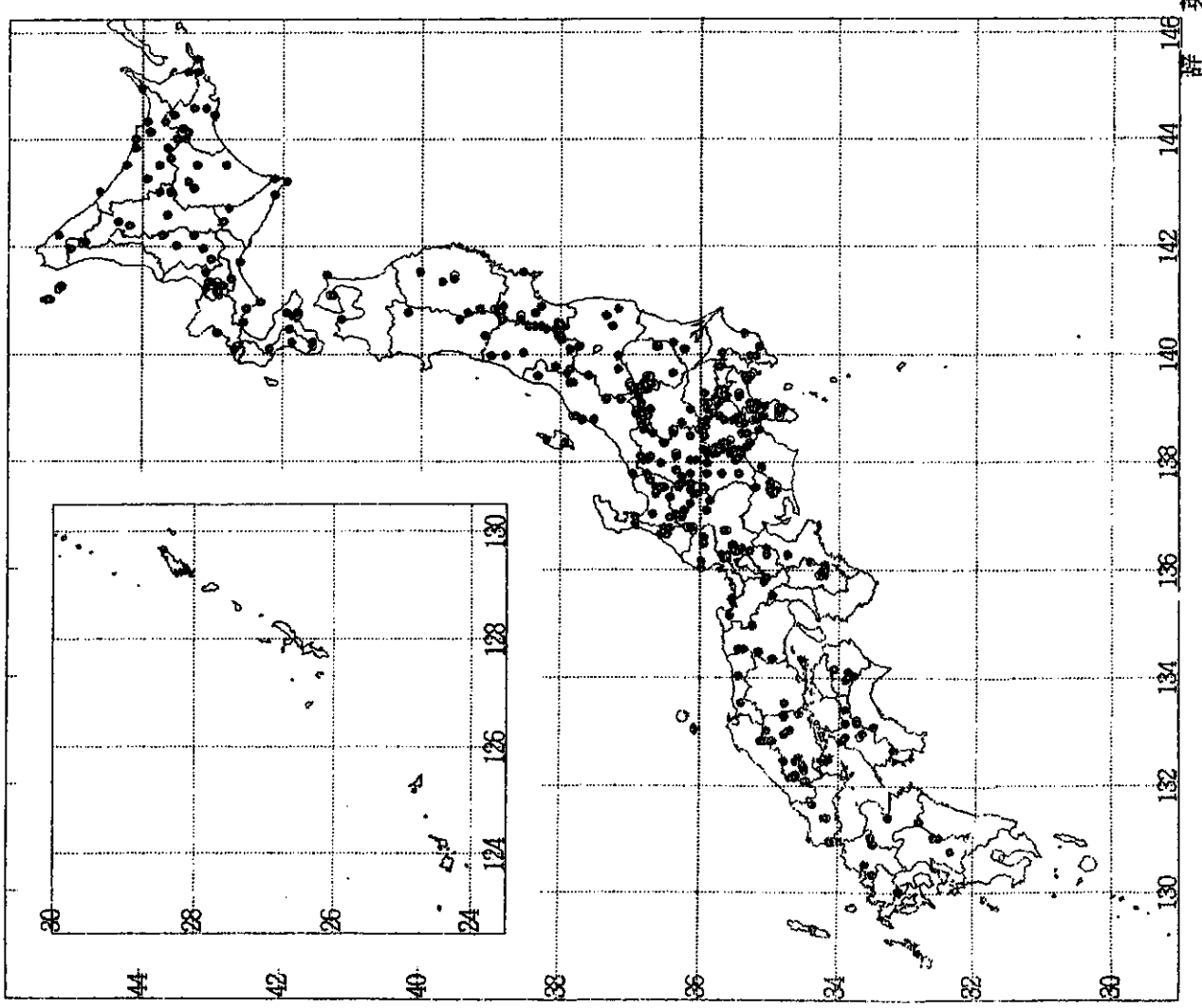
ツバキ Pnt= 53 Rec= 121



群 3

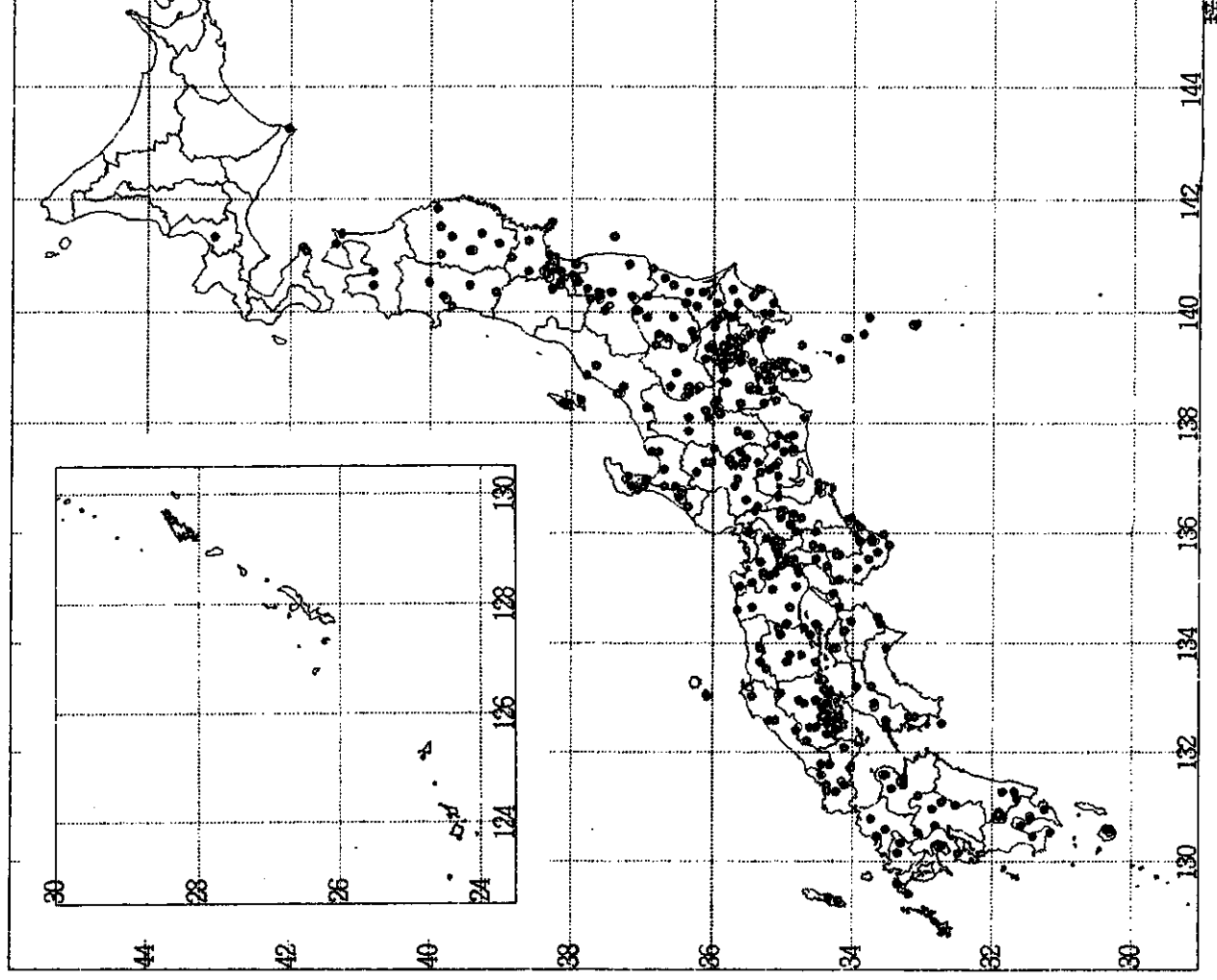
1998/11/01 19:50:11

マシコノリ Pnt= 178 Rec= 544



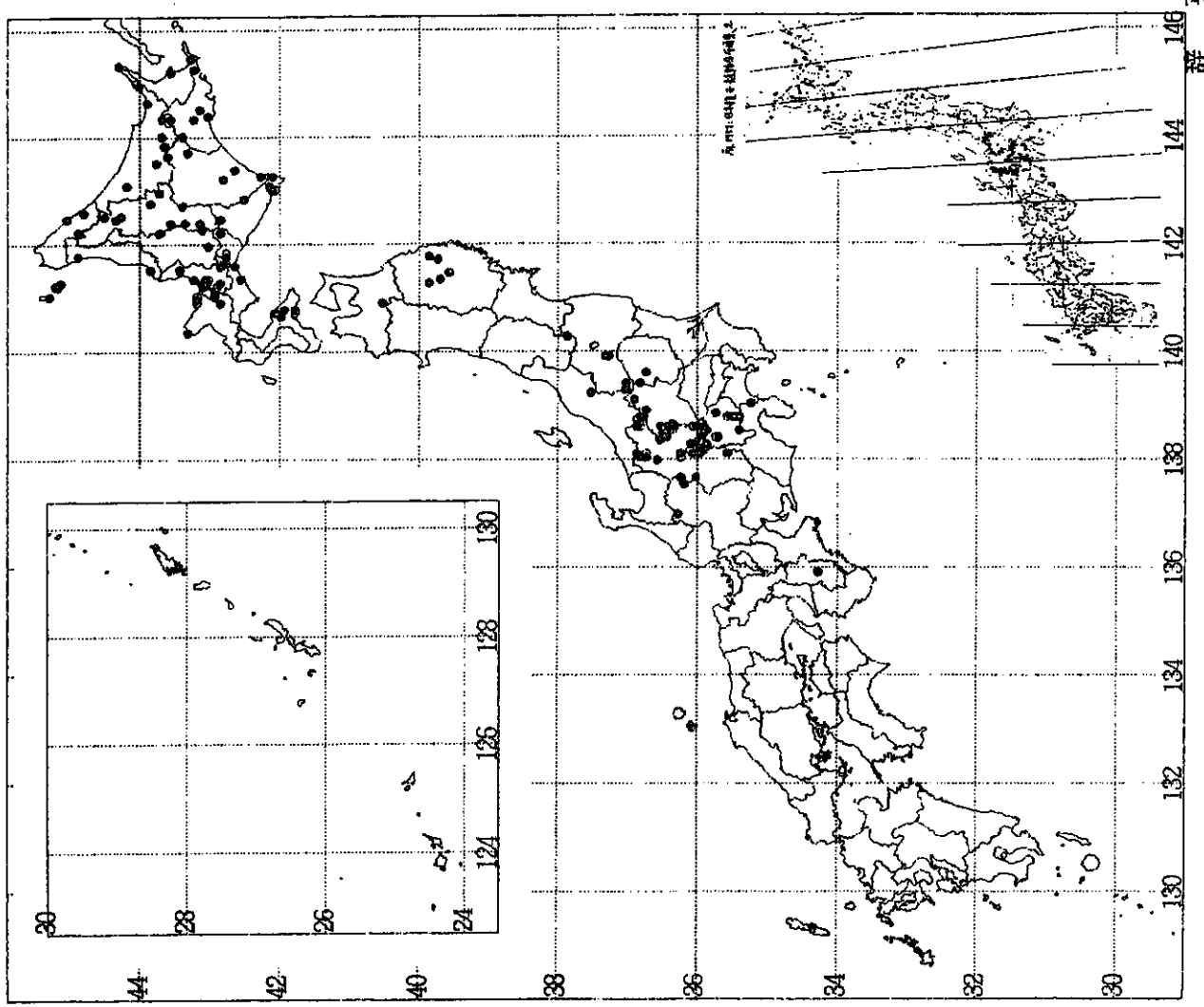
1998/11/01 15:39:25

ヒメノリ Pnt= 94 Rec= 554



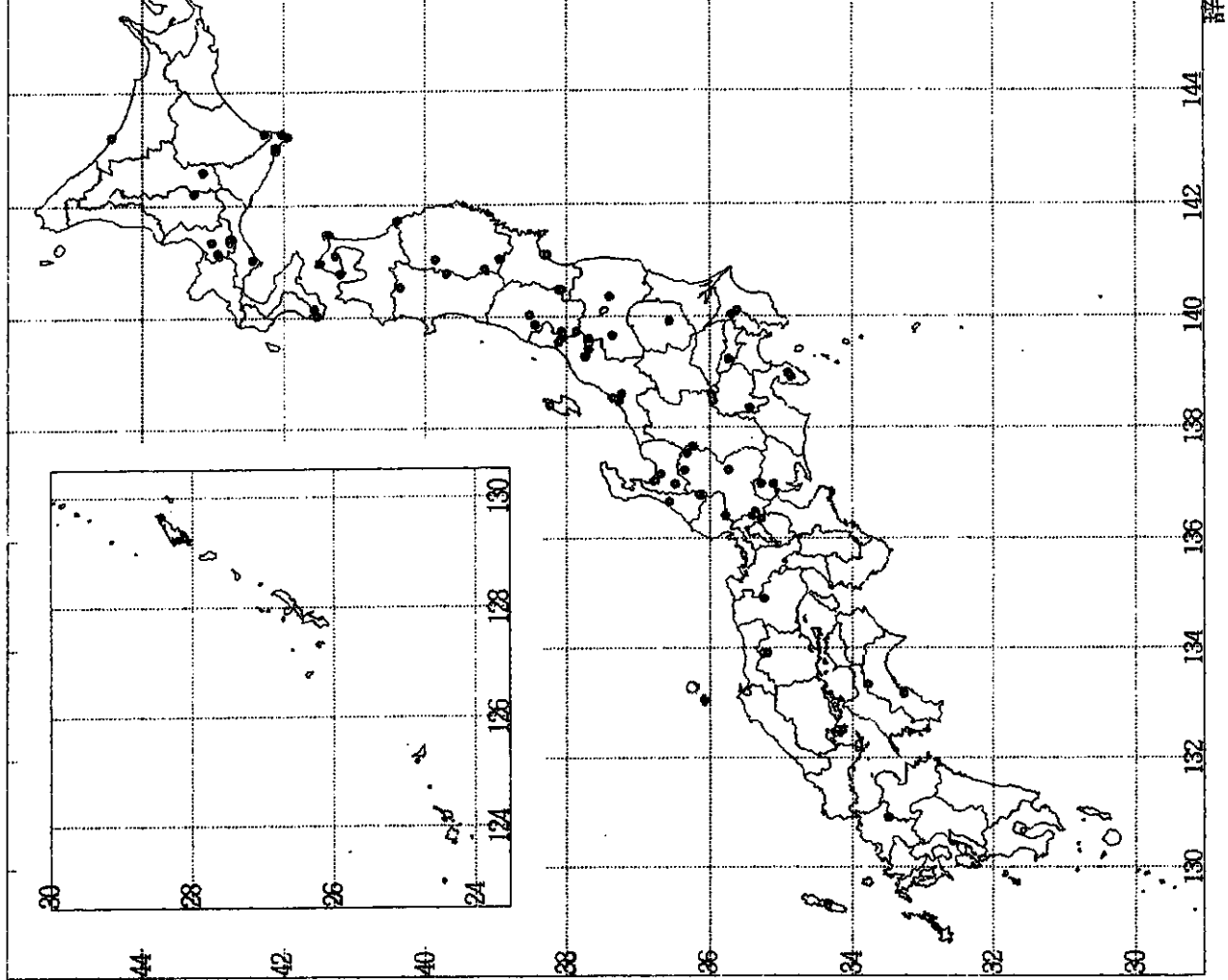
1998/11/01 21:47:32

チウカツノシ Pnt= 109 Rec= 269



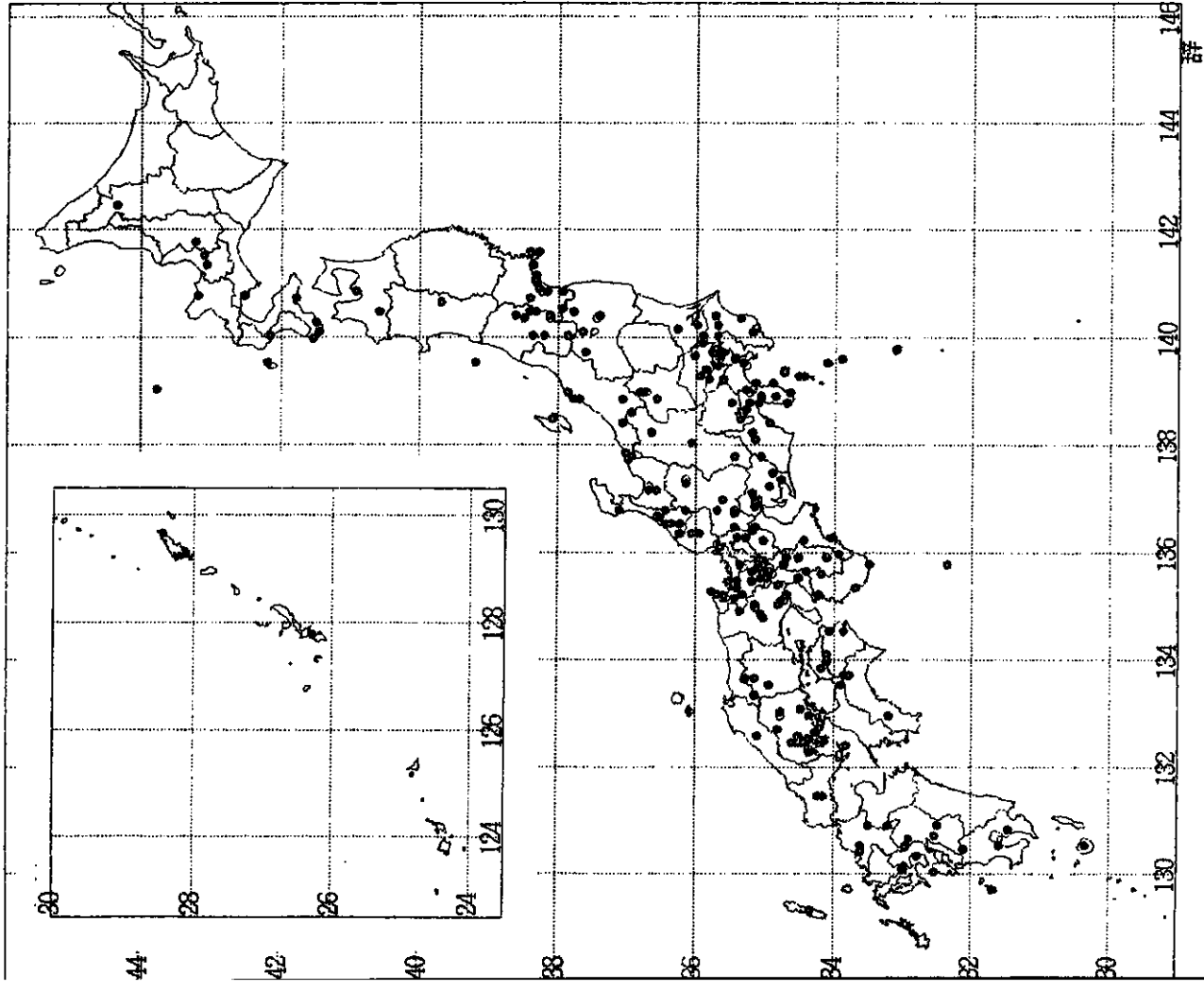
1998/10/31 12:11:24

トウチ Pnt= 50 Rec= 117



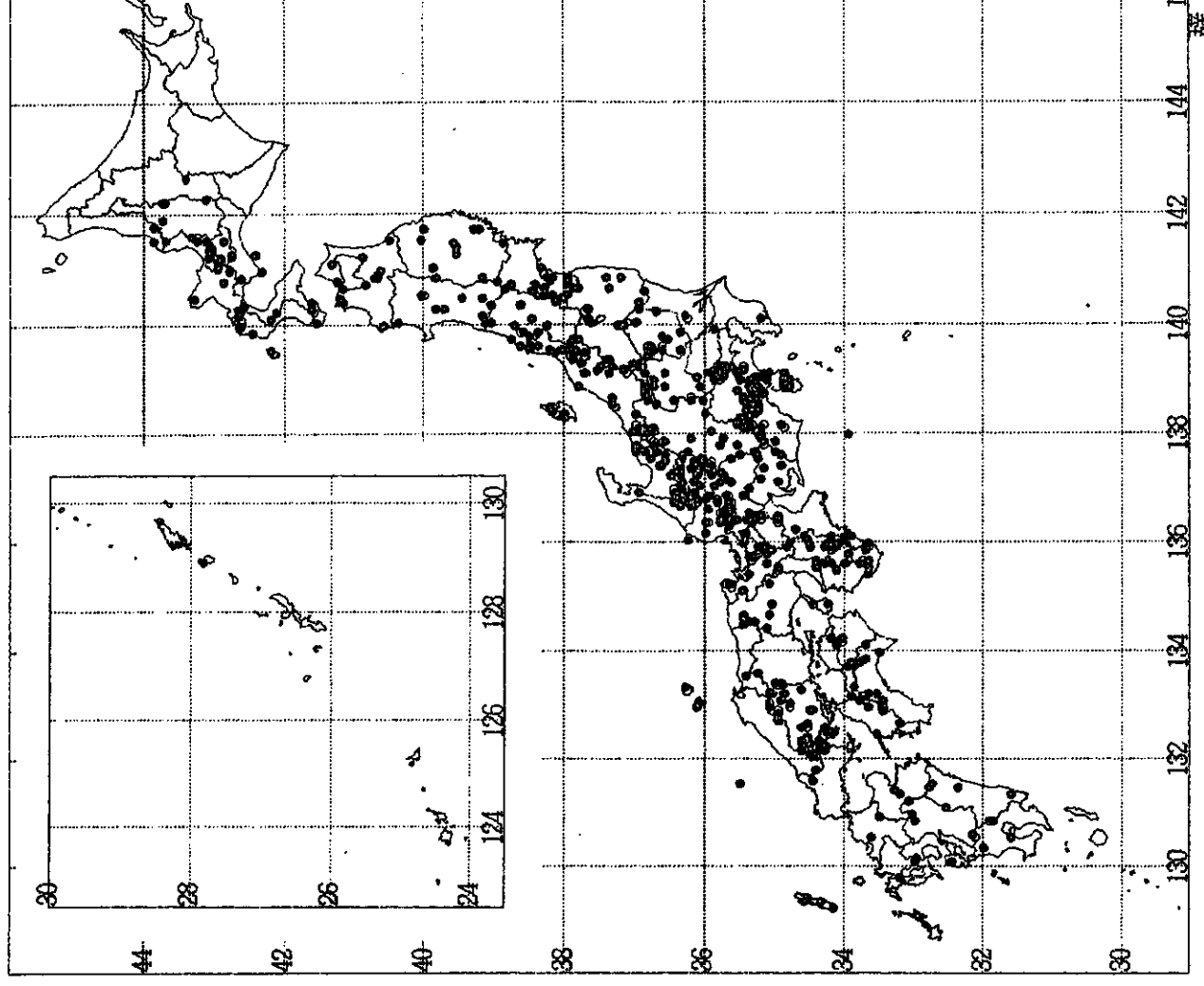
18/11/01 21:41:58

トクサミ Pnt= 64 Rec= 344



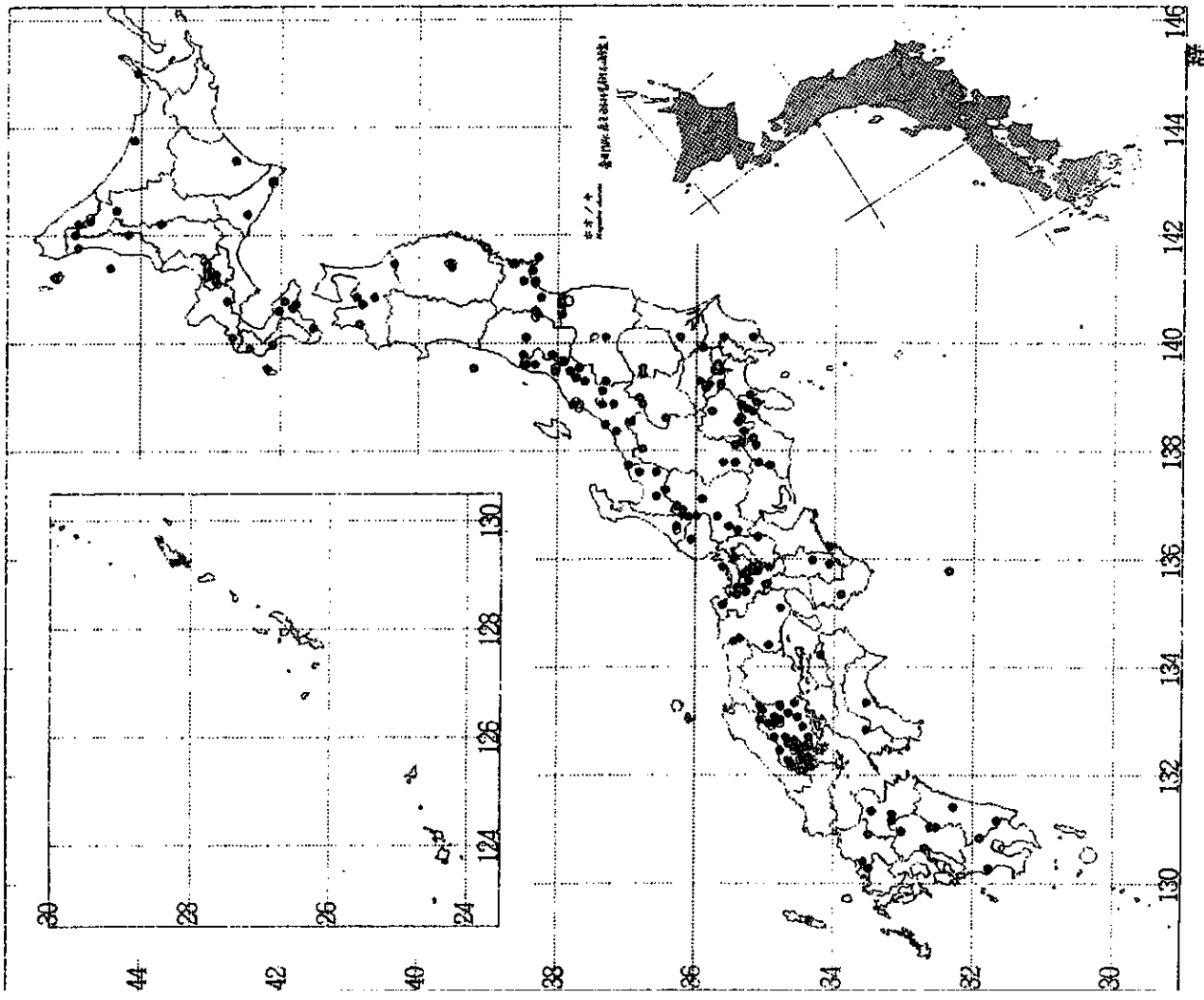
1998/10/31 13:26:01

トクサミ Pnt= 222 Rec= 893



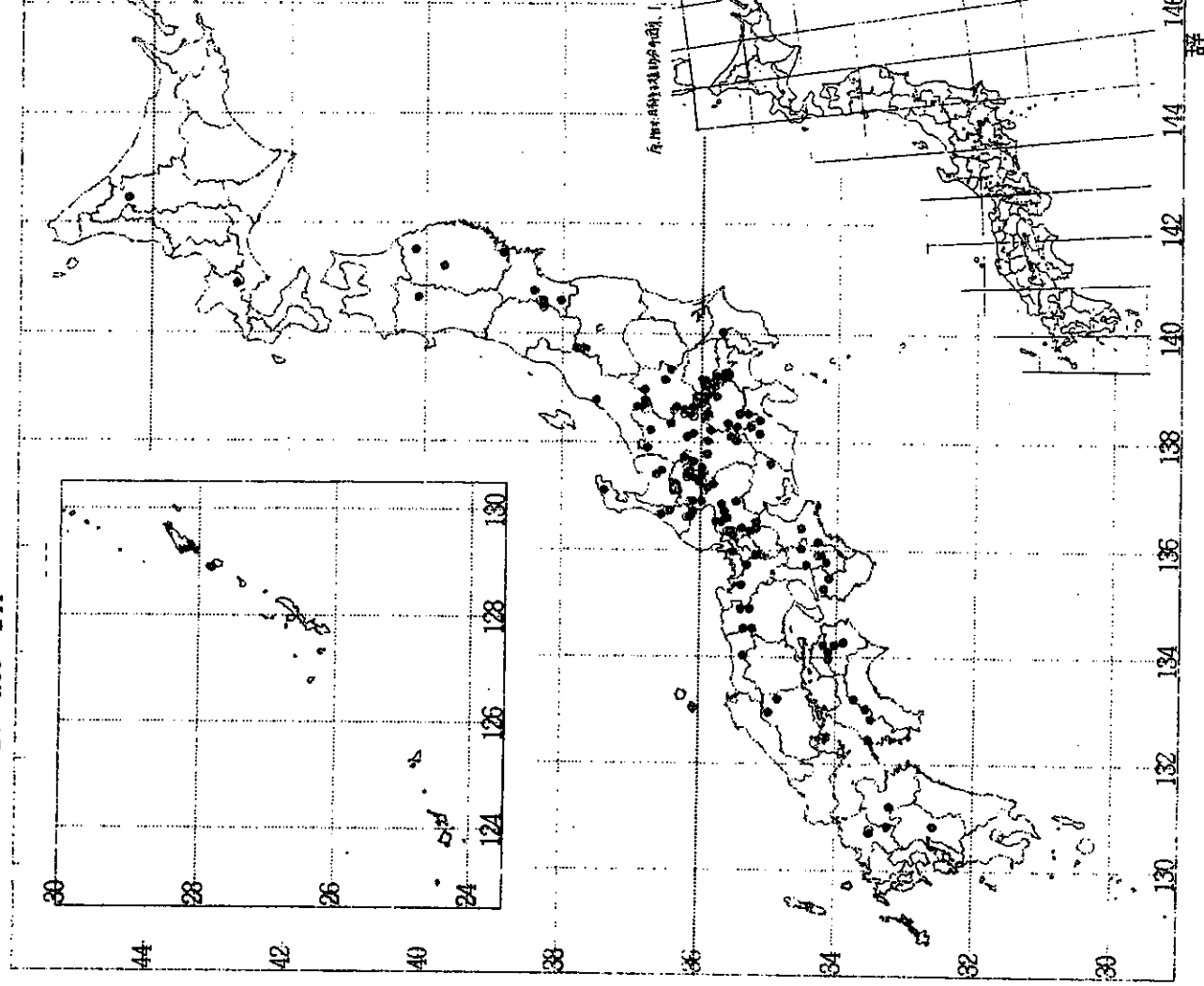
8/11/01 18:25:39

観測点 Pnt= 92 Rec= 274



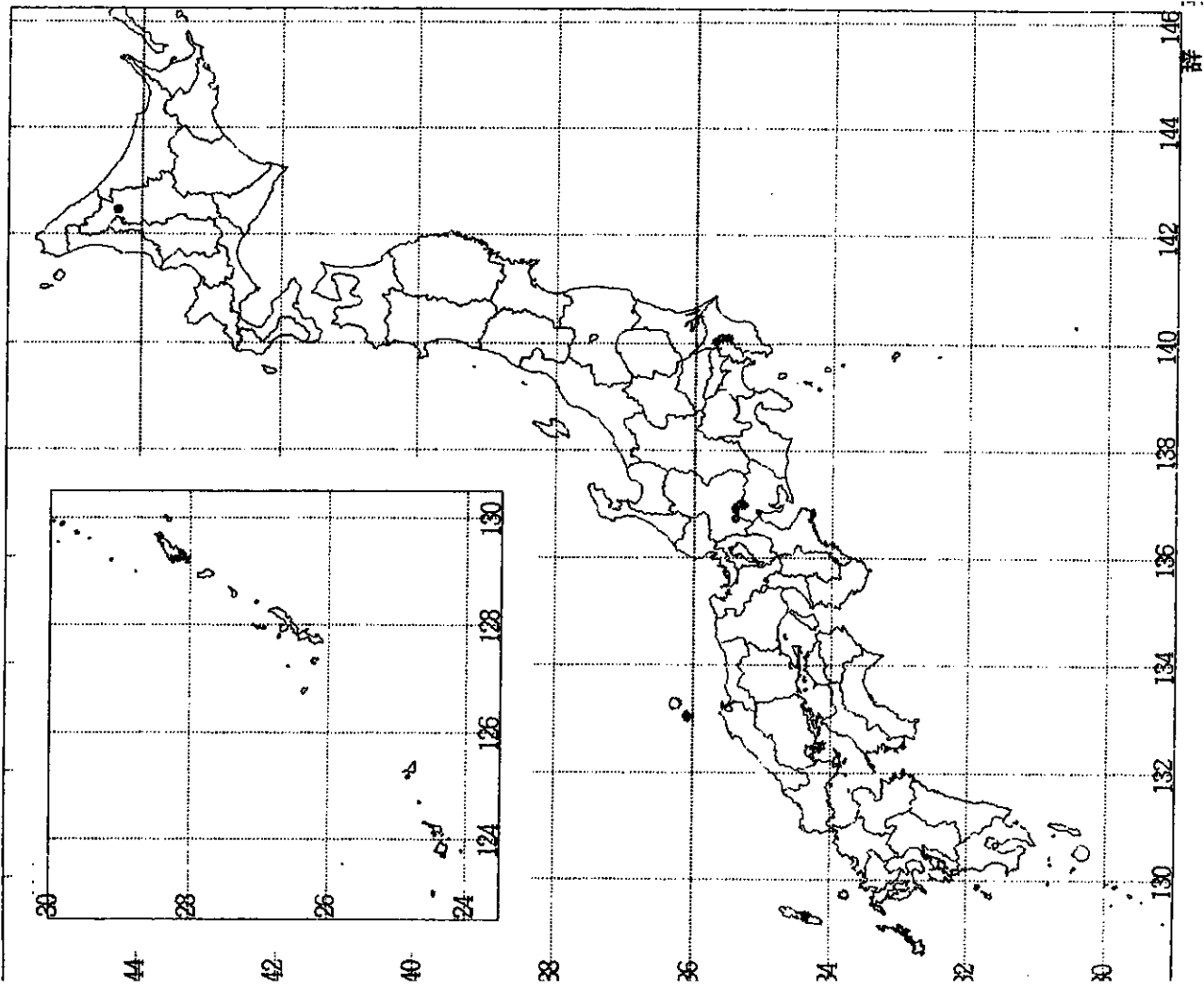
1998/11/01 22:08:48

観測点 Pnt= 27 Rec= 241



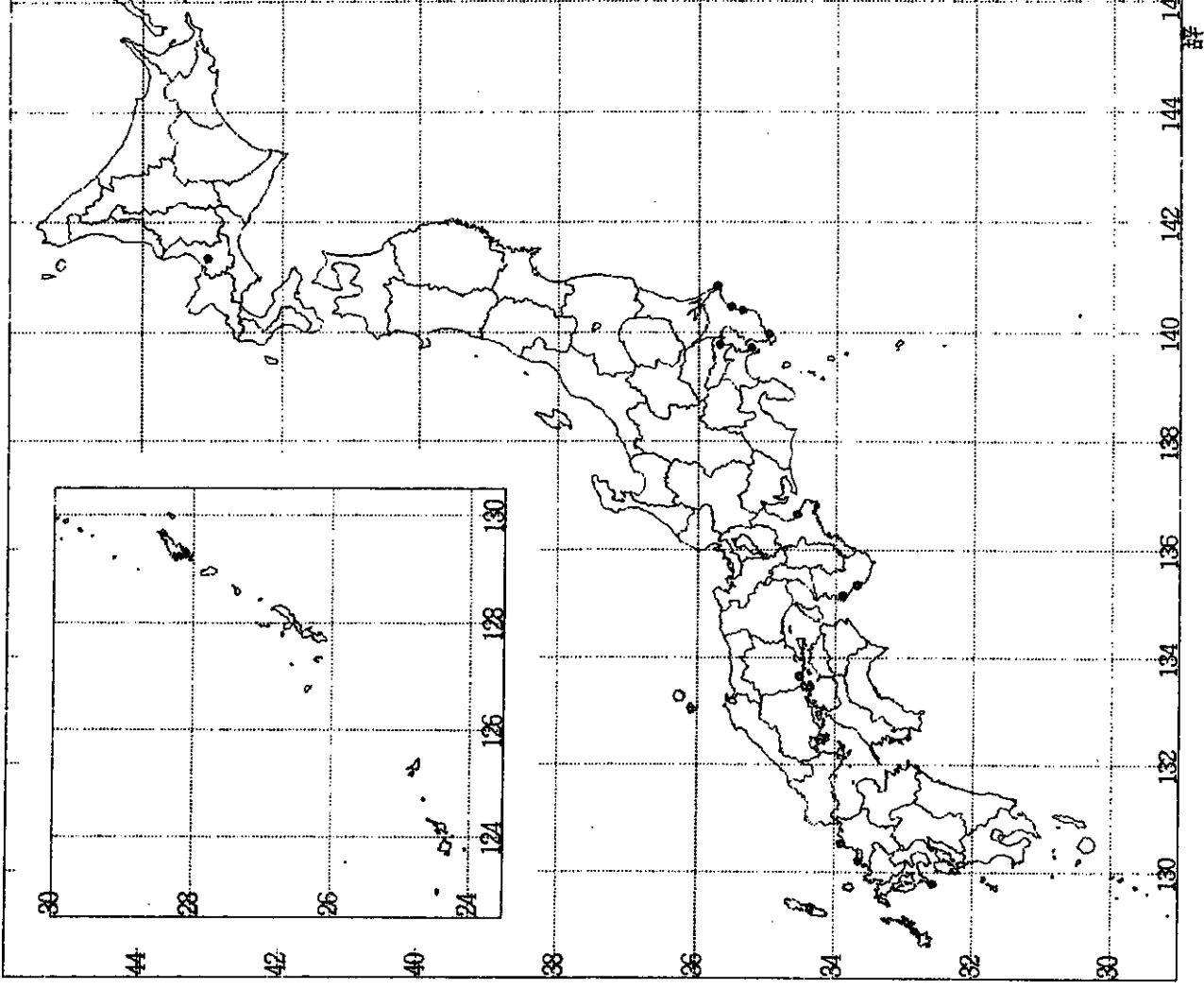
18/11/01 19:23:41

ハブタ# Pnt= 1 Rec= 8



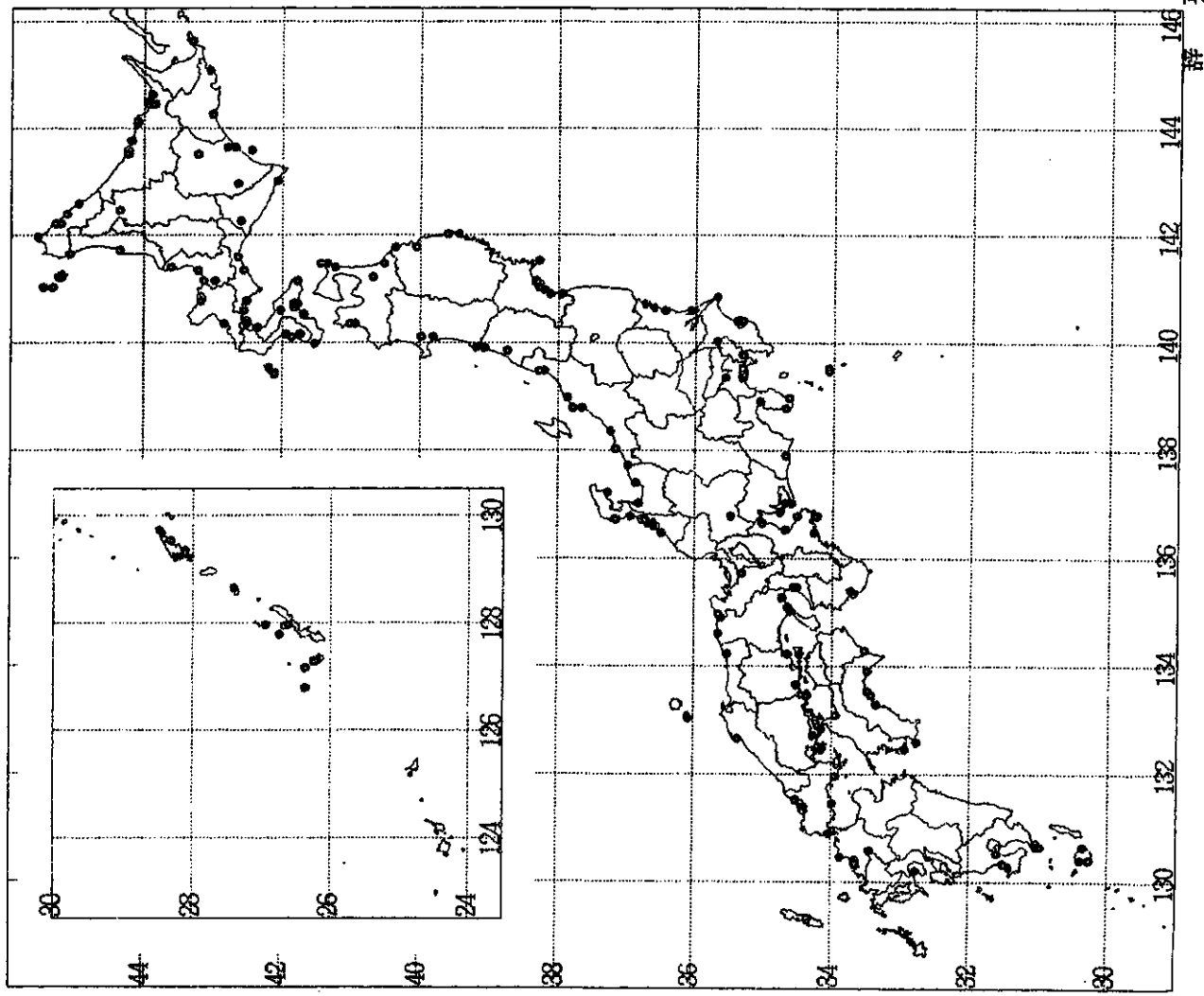
1998/11/01 22:40:13

ハブタ# Pnt= 1 Rec= 25



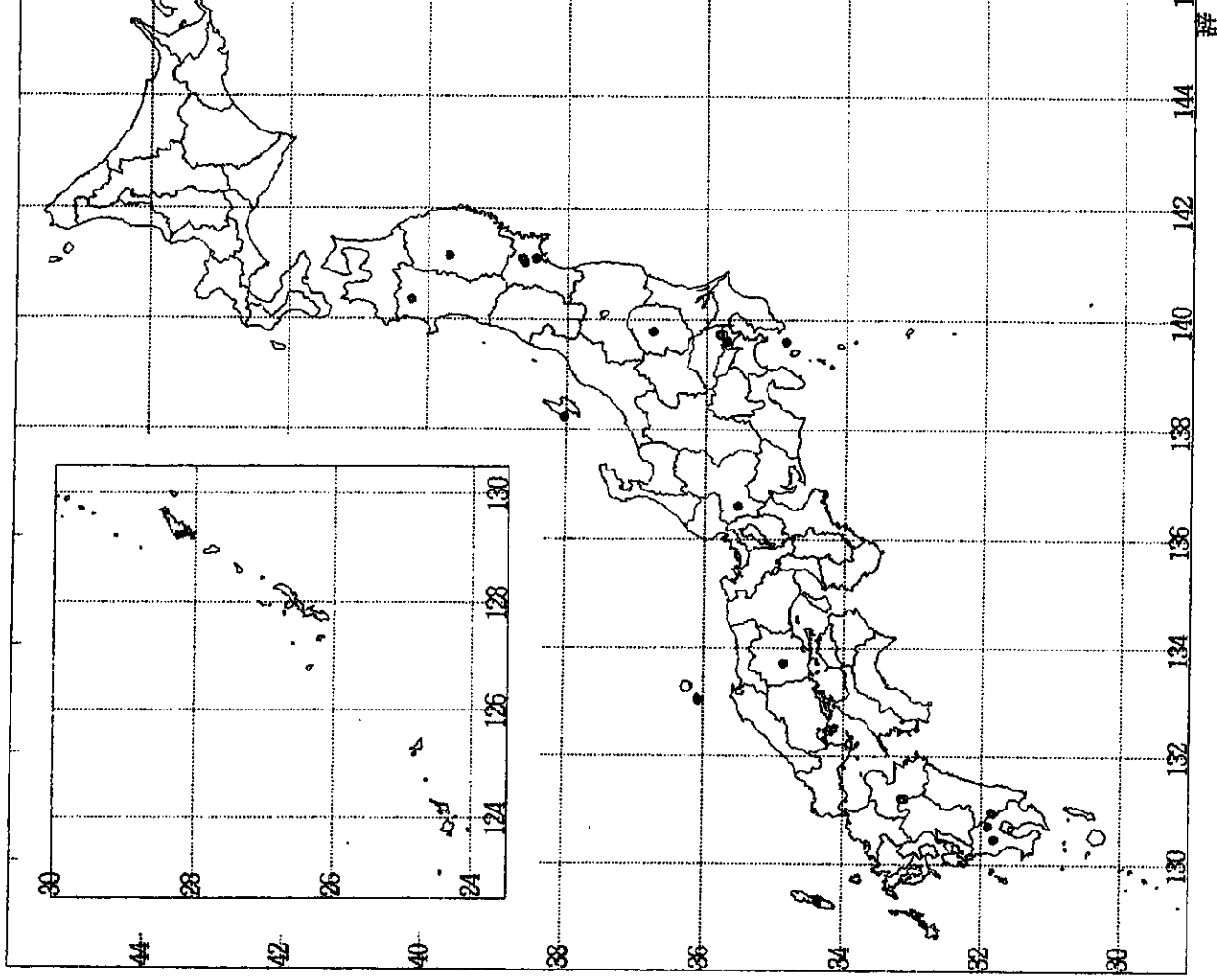
98/10/31 12:32:26

ハマボウウツ Pnt= 102 Rec= 298



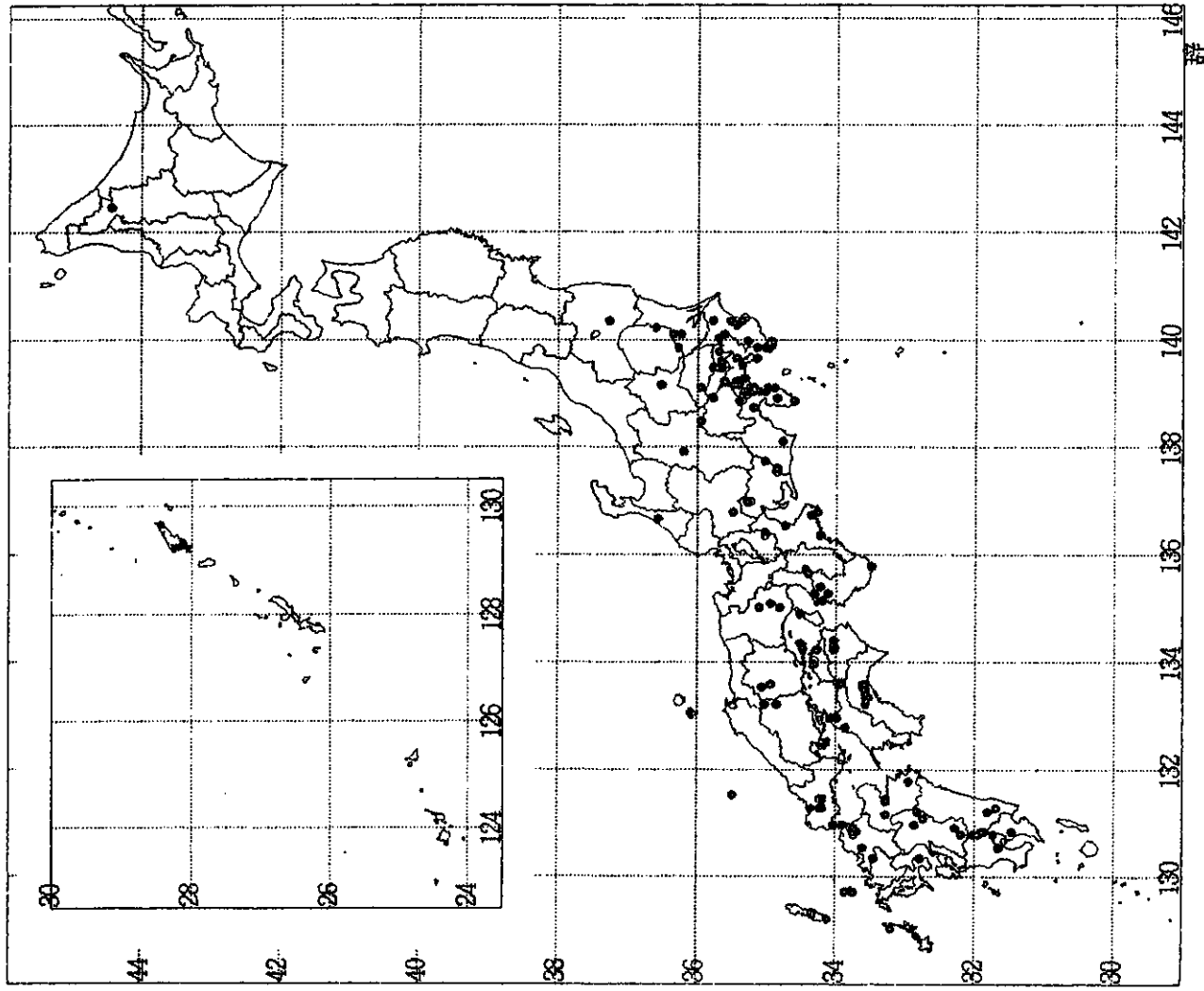
1998/10/31 12:58:53

マイヅルペンナンシ Pnt= 7 Rec= 24



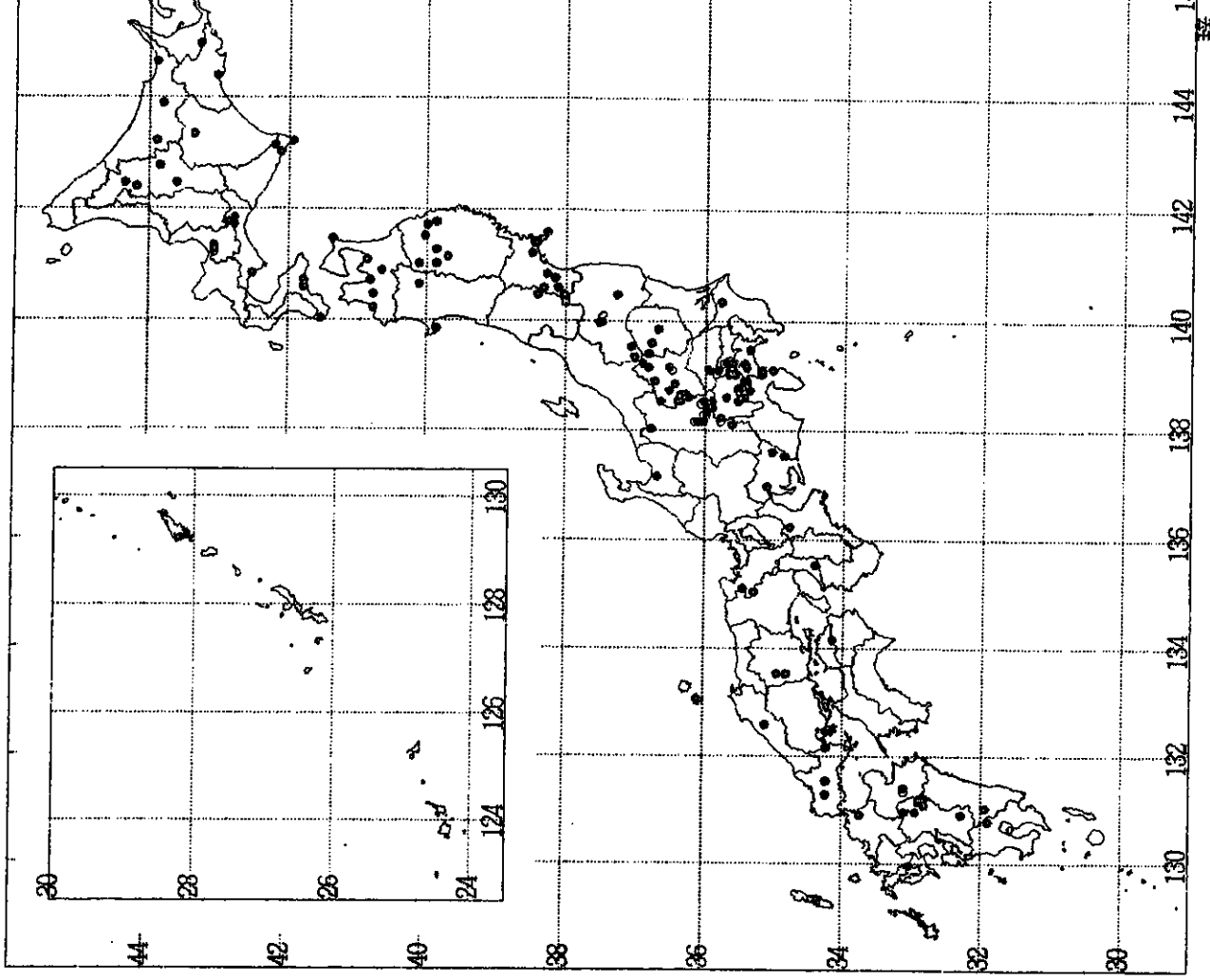
38/10/31 12:27:00

ミツササギ Pnt= 5 Rec= 222



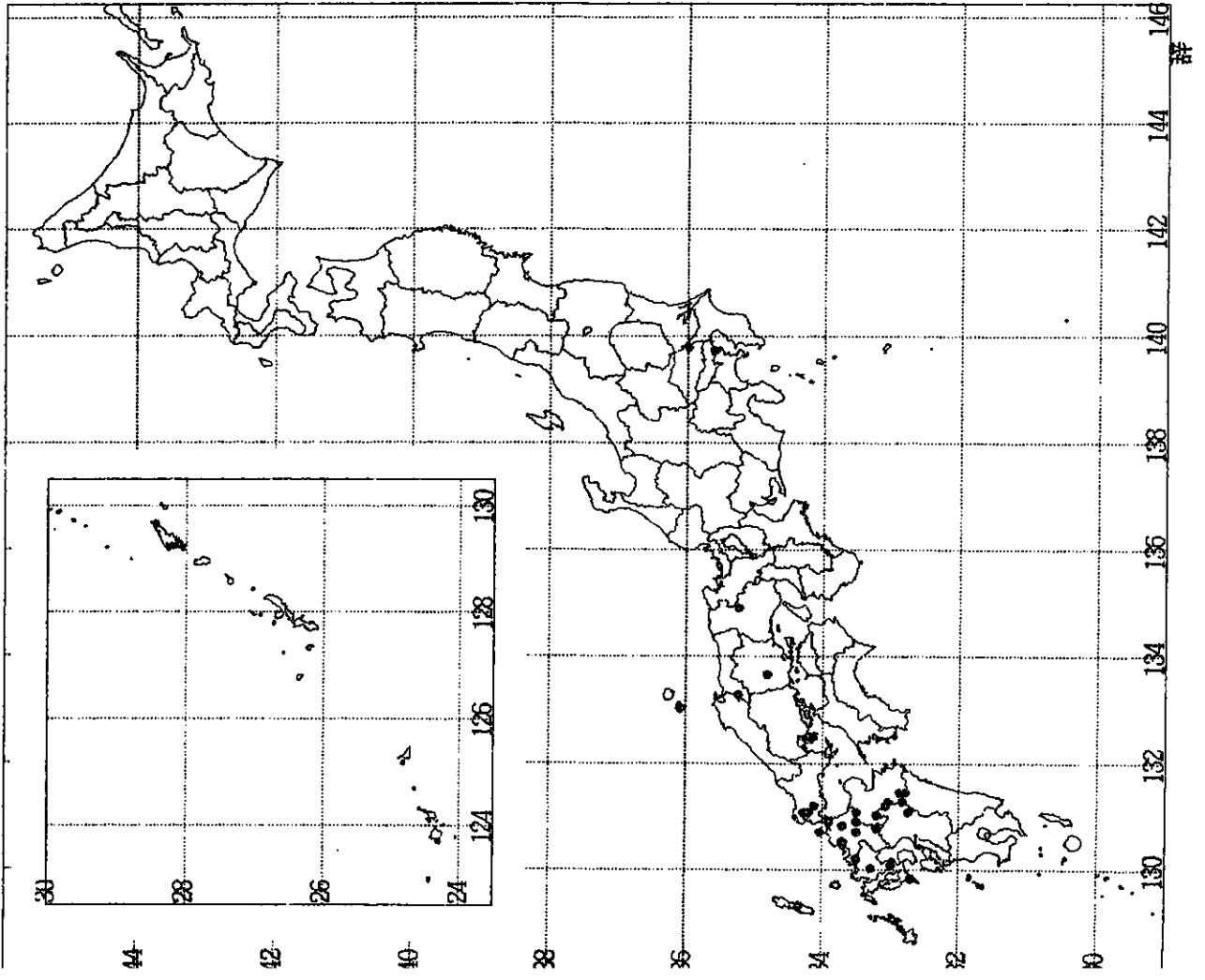
1998/10/31 14:50:11

ムツササギ Pnt= 63 Rec= 209



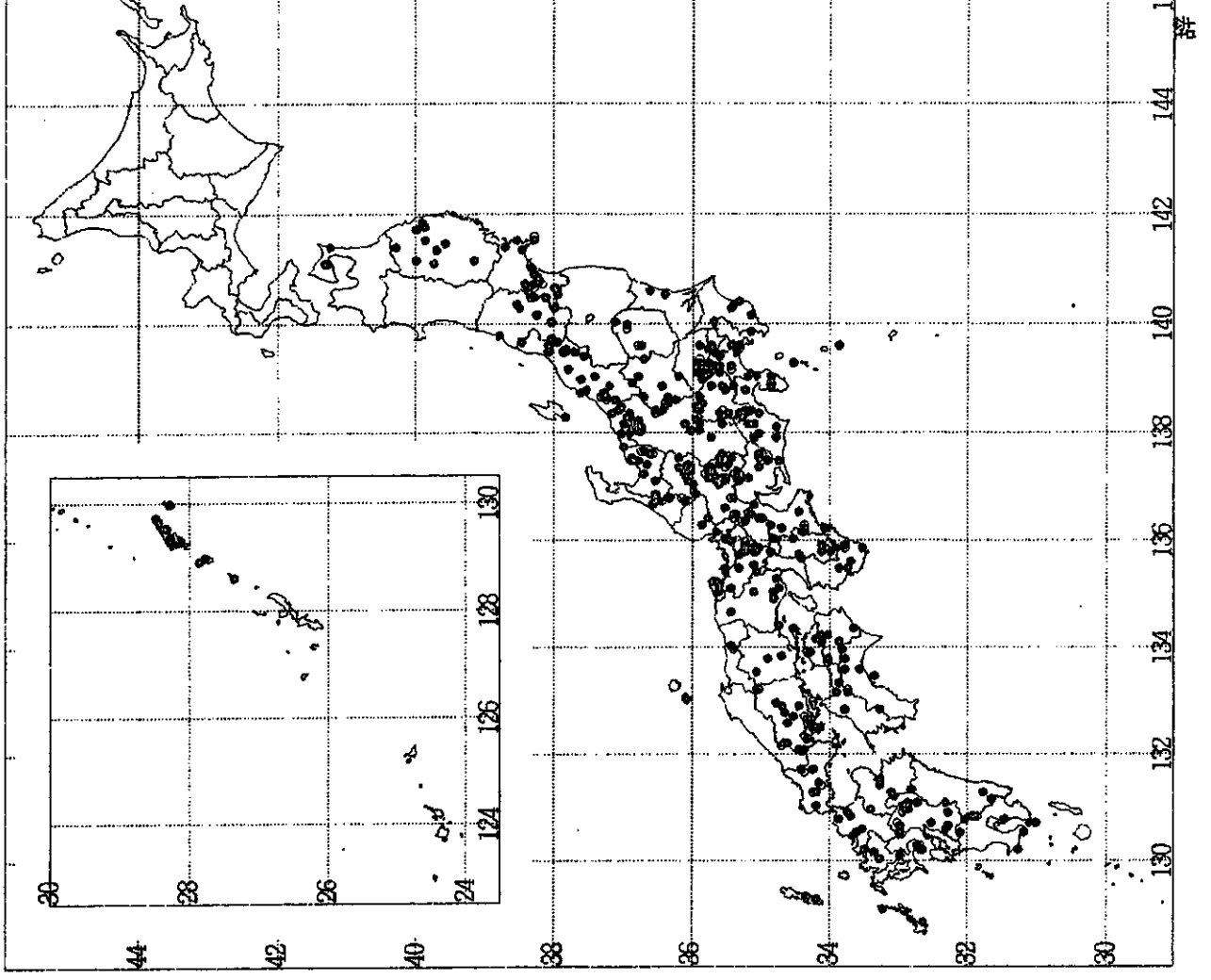
8/10/31 12:21:50

ポイント Pnt= 0 Rec= 34



1998/11/01 15:33:59

ポイント Pnt= 103 Rec= 526



「付近」は無駄

金井 弘 夫

標本の産地を記すとき、正確に書きたいのは誰でも同じである。産地には地名を用いるのが常識である。植物を採った地点はほんとの一つの「点」なのだが、地名(例えばB)というものはもともと一点を指すものではなく、ほとんどの場合ある広がりを持っている。地点がその広がりの中にあれば、安心してBと記す。地点が広がりの外にあるけれど、ほかに適当な地名がないときには、やむを得ずBを使うのだが、「B」と言い切るのはなんだか良心がとがめる。そこで「B付近」と記す。このたぐいの記事は「付近」のほかに「～湖畔」、「～川沿い」、「～郊外」、「～山麓」など、しばしばお目にかかる。

近頃はデータベース作りが盛んになり、それを利用してパソコンで分布図を作ることが流行しはじめた。そのため、ラベルの記述法やデータベースの形式などが、分類学会で議論されている。パソコン分布図を作るには地名そのものではむづかしく、地名の位置を数値に置き換えてこれを作図に使う。したがって地名の位置座標を与えるという作業がどうしても必要になってきた。その作業をしている気付いたのは、「付近」という文字が何の役にも立たないということである。この文字は位置の正確さを目指して書いたはずなのに、かえって位置をボヤカス作用をしている。「B付近」と記されていても、位置座標はBのそれを与える他はなく、「付近」があってもなくても同じなのである。では「付近」は何をしているかという点、「産地はBではないのだゾ」と自己否定的に叫んでいるだけで、何ら積極的な役目を果たさない。

位置を特定するためには、方向と距離という二つの測元(ディメンション)が必要で、その前に原点が定まっていなければならない。この場合原点はBの位置座標である。「付近」はそれ以上のものを与えない。心情的には「B付近」はわかるけれど、これは「記録精度を甘くみてくれ」と言っていることになり、しかもその「甘さ」の程度は示されていないことになる。

これと似たものに「A～B」と二つの地名をつないだものがある。これは観察会記録にはつきものだ。この場合、方向は示されているが、距離がないから地点がAからどのくらい離れているかわからない。こういう記事は、AからBへ至る間に採集したすべての地点を指すわけだから、距離は0かもしれないしBまで行ってしまうかもしれない。手作業で分布図を作るときは、AとBの中間に点を描く。しかし地名を数値に変換する作業では、そんな親切(でしかもいい加減)なこととはしてられないから、私はAの位置座標を与えてしまう。これだってA～Bの範囲内なのだから………。高度記録ではこれが非常に多い。これは低い方を採用することになっている。高い方をとることにすると、海拔0mの産地が無くなってしまうからである。

「○○町郊外」は始末が悪い。「○○町」といっても、行政区画としての○○町とは誰も思わないだろう。「○○の市街地の外」という意味であるはずである。それでも○○町の市街地はずい分広範囲であり、「郊外」はそのドーナツとなる。方角も距離もわからない。結局○○町役場とか○○駅の位置座標を与えることになる。「そんないい加減なことをするな」と怒られてもこれ以外にやり様はなく、棄ててよければよほどサバサバするがそうはゆかない。過去の記録がそれしかないというケースならば、無視するわけにゆかないのである。環境の変遷を分布の変化で示そうとすれば、こういう事例は少なくない。

「～山」とか「～山麓」はもっと困る。小さな山なら問題ないが、富士山や阿蘇山となると位置の決めようがない。でも近頃はこういう記事は少なくなった。

地名が文字通り「点」を示す場合もある。「一本杉」、「～氏墓」、「～駅」などである。墓石の上や一本杉の幹の中から採集するわけでないから、どうしても「付近」をつけなくなる。しかしつけただけの効能はない。

要するに、心情的な「正確さ」が数値的な「正確さ」とフィットしないということ、理解して欲しいということである。数値的な正確さで産地を記録しろと言っているのではない。産地の記録には地名で十分だと、私は思っている。ただそれに一層の「正確さ」を

つけ加えようとするなら、無意味な文字つけ加えない工夫をして欲しいと言いたいがある。数値的な「正確さ」を目指して、索引の位置座標をラベルに引き移す人が、これは本末転倒である。地名索引を、産地が記してあるだけのラベルに、理に位置座標を与える必要があるからにない。自分が採集した地点を地図上に見て、その位置(経緯度が一番よい)を言ばよいのだ。以前に書いたが、数値的位置記録にはGPS測位機が、われわれにも手頃で値段になっているが、針で刺すような「正確さ」を分布図に期待しない方がよいだから、あまり神経質になる必要はない。

野草 62(472):49-51 (199)

吉和村資源植物調査報告 (第3回薬用植物シンポジウム・資源観察会 1998/6/7)

平成10年6月11日

観察地 広島県佐伯郡吉和村小川谷 (国道より2.5km地点までの林道沿い) 海拔約700M

確認は◇と*、 標本は●、 生育量(多量:◎、普通:○、少量:△)

(佐竹元吉、川原信夫、高上馬希重、李宜融)

科名	番号	学名	植物名	1998/6/7	1997/5/31	1996/6/15の生育量
Pteridopyta 羊歯植物類						
	1	Lycopodium serratum Thunb. var. serratum	ホソバトウゲシバ	●		
2 Osmundaceae ゼンマイ科	2	Osmunda japonica Thunb.	ゼンマイ	◇	*	◎
	3	Osmunda lancea Thunb.	ヤシヤゼンマイ	◇	*	○
	4	Osmunda lancea Thunb. var. latipinnula Tagawa	オオバヤシヤゼンマイ	◇	*	△
	5	Osmundastrum cinnamomeum (L.) Pr. var. fokiense (Copel.) Tagawa	ヤマドリゼンマイ		*	
	6	Japanobotrychium virginianum (L.) Nishida	ナツノハチウラビ	◇	*	○
3 Botrychiaceae ハナウラボ科						
	7	Adiantum pedatum L.	クジヤクシダ	●		
	8	Coniogramme intermedia Hieron.	イワガネゼンマイ	◇	*	◎
	9	Dennstaedtia hirsuta (Sw.) Mett.	イヌシダ	◇	*	◎
	10	Dennstaedtia scabra (Wall.) Moore	コバノイシカグマ	●		
	11	Peridium aquilinum (L.) Luhn var. latiusculum (Desv.) Und.	ウラボ	◇	*	◎
5 Plagiogyriaceae キジノオシダ科	12	Pteris inaequalis Bak. var. aquata (Miq.) Tagawa	オオバノハチジョウシダ	◇		
	13	Plagiogyria matsumureana Makino	ヤマウラボ	◇	*	○
6 Davalliaceae シノブ科						
	14	Davallia mariesii Moore	シノブ		*	

科名	番号	学名	植物名	1998/6/7	1997/5/31	1996/6/15の生育量
7 Aspidiaceae オシダ科	15	<i>Acrostopteris japonica</i> (Luerss.) Nakai	ウスヒメワラビ	●		
	16	<i>Athyrium deltoideifrons</i> Makino	サトメシダ	◇		○
	17	<i>Athyrium aquamigerum</i> (Metz.) Ohwi	キヨタキシダ	●	*	△
	18	<i>Athyrium iseanum</i> Ros.	ホソバノオシダ	●		
	19	<i>Athyrium pycnosorum</i> Christ	ハクモウキノチ (ミヤマシケシダ)	●	*	○
	20	<i>Athyrium vidalii</i> (Fr. et Sav.) Nakai	ヤマオシダ	◇	*	◎
	21	<i>Athyrium wardii</i> (Hook.) Makino	ヒロハノオシダ	◇		
	22	<i>Crytomium fortunei</i> J. Sm.	ヤブソテツ		*	○
	23	<i>Crytomium macrophyllum</i> (Makino) Tagawa	ヒロハヤブソテツ	◇		△
	24	<i>Dryopteris chinensis</i> (Bak.) Koidz.	ミサキカグマ	◇		△
	25	<i>Dryopteris lancear</i> (Thunb.) O. Ktze.	クマワラビ		*	○
	26	<i>Dryopteris dickinsii</i> (Fr. et Sav.) C. Chr.	オオクジヤクシダ	●	*	○
	27	<i>Dryopteris erythrosora</i> (Eat.) O. Ktze.	ベニシダ		*	○
	28	<i>Dryopteris saxifraga</i> H. Ito	イロイカタシダ	◇	*	
	29	<i>Lastrea laxa</i> (Fr. et Sav.) Copel.	ヤワラシダ	◇	*	
	30	<i>Leptogramma mollissima</i> (Fisch.) Ching	ミゾシダ	◇	*	◎
	31	<i>Mattuccia orientalis</i> (Hook.) Trev.	イヌガソソク	◇		
	32	<i>Polystichopsis standishii</i> (Moore) Tagawa	リョウケノシダ	◇	*	◎
	33	<i>Polystichum tripteris</i> (Kunze) Fr.	ジュウケノシダ	◇	*	◎
34	<i>Polystichum pseudo-makinoi</i> Tagawa	サエゴケノチ		*	△	
35	<i>Polystichum retroso-paleaceum</i> (Kodama) Tagawa	サカザノチ	◇	*	○	
36	<i>Polystichum retroso-paleaceum</i> (Kodama) Tagawa var. <i>ovato-paleaceum</i> (Kodama) Kurata	ツヤチシノチ	●	*	◎	
37	<i>Polystichum tagawanum</i> Kurata	イノチモドキ	◇	*	○	
8 Blechnaceae シシガシラ科	38	<i>Struthiopteris niponica</i> (Kunze) Nakai	シシガシラ	●	*	◎
	39	<i>Asplenium incisum</i> Thunb.	トラノオシダ	◇		◎

科名	番号	学名	植物名	1998/6/7	1997/5/31	1996/6/15の生育量
Gymnospermae 裸子植物						
10 Cephalotaxaceae イヌガヤ科	40	Cephalotaxus harringtonia (Knight) K. Koch var. nana (Nakai) Rehder	ハイイヌガヤ	◇	*	◎
11 Taxodiaceae スギ科	41	Cryptomeria japonica (Linn. fil.) D. Don	スギ	◇	*	◎
12 Taxaceae イチイ科	42	Torreya nucifera (Linn.) Sieb. et Zucc. var. radicans Nakai	チヤボガヤ	◇	*	◎
13 Pinaceae マツ科	43	Abies firma Sieb. et Zucc.	モミノキ	◇	*	○
	44	Larix leptolepis (Sieb. et Zucc.) Gordon	カラマツ	◇		
Angiospermae 被子植物						
Monocotyledoneae 単子葉類						
14 Gramineae イネ科	45	Anthoxanthum odoratum Linn.	ハルガヤ	●		
	46	Dactylis glomerata Linn.	カモガヤ	◇	*	◎
	47	Festuca parvigluma Steud.	トボシガラ	◇		○
	48	Sasa palmata (Bean) Nakai	チロキガサ	◇	*	
15 Cyperaceae カヤツリグサ科						
	49	Carex curvicolis Franch. et Savat.	ナルコスゲ	◇		
	50	Carex foliosissima Fr. Schum.	オクノカンスゲ	◇		◎
	51	Carex gobba Wahlenb.	マスコサ	◇		
	52	Carex siderosticta Hance	タガネソウ		*	
16 Araceae サトイモ科						
	53	Arisaema japonicum Blume	マムシグサ (アネマムシグサ)	◇	*	○

科名	番号	学名	植物名	1998/6/7	1997/5/31	1996/6/15の生育量
17 Liliaceae ユリ科	54	<i>Disporum sessile</i> Don	ホウチヤクソウ	◇	*	◎
	55	<i>Hosta montana</i> F. Maekawa	オオバギボウシ			◎
	56	<i>Lilium cordatum</i> (Thunb.) Koidz.	ウバユリ	◇	*	◎
	57	<i>Lilium japonicum</i> Thunb.	ササユリ			○
	58	<i>Polygonatum falcatum</i> A. Gray	ナルコユリ	◇		○
	59	<i>Polygonatum macranthum</i> (Maxim.) Koidz.	オオナルコユリ	◇		
	60	<i>Smilax china</i> Linn.	サルトリイバラ (吉和ではカタラ)	◇	*	◎
	61	<i>Smilax nipponica</i> Miq.	タチシオサ		*	○
	62	<i>Smilax riparia</i> A. DC. var. <i>ussuriensis</i> (Regei) Hara et T. Koyama	シオサ	◇	*	◎
	63	<i>Tricyrtis macropoda</i> Miq.	ヤブホトトギス	◇	*	◎
18 Juncaceae イグサ科						
	64	<i>Luzula multiflora</i> Lejeune	ヤブスズメノヒエ		*	○
	65	<i>Luzula plumosa</i> E. Meyer var. <i>macrocarpa</i> (Buchen.) Ohwi	ヌカホソソウ	◇		
19 Dioscoreaceae ヤマノイモ科	66	<i>Dioscorea septemloba</i> Thunb.	キクハバコロ	◇	*	○
	67	<i>Iris japonica</i> Thunb.	シヤガ	◇	*	○
20 Iridaceae アヤメ科						
	68	<i>Calanthe tricarinata</i> Lindl.	サルメソエヒメ			△
21 Orchidaceae ラン科	69	<i>Liparis kramerii</i> Franch. et Savat.	シガバチソウ	◇	*	△

科名	番号	学名	植物名	1998/6/7	1997/5/31	1996/6/15の生育量
Angiospermae 被子植物 Dicotyledoneae 双子葉類 22 Chloranthaceae セリヨウ科	70	<i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	ツタリシズカ	◇	*	◎
	71	<i>Chloranthus japonicus</i> Sieb.	ヒトリシズカ		*	◎
23 Juglandaceae クルミ科	72	<i>Pterocarya rhoifolia</i> Sieb. et Zucc.	サワグルミ	◇	*	◎
24 Betulaceae カバノキ科	73	<i>Betula grossa</i> Sieb. et Zucc.	ミズメ (アスサ、ヨグソミネバリ)	◇		△
	74	<i>Carpinus japonica</i> Blume	クマシテ	◇	*	◎
	75	<i>Carpinus laxiflora</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	アカシテ	◇	*	◎
	76	<i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.	イヌシテ	◇	*	◎
	77	<i>Corylus sieboldiana</i> Blume	ツノハシバミ	◇	*	◎
25 Fagaceae ブナ科	78	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ		*	◎
	79	<i>Fagus japonica</i> Maxim.	イヌブナ	◇	*	○
	80	<i>Quercus mongolica</i> Fischer var. <i>grosseserrata</i> (Blume) Rehd. et Wils.	ミズナラ	◇	*	◎
	81	<i>Quercus serrata</i> Thunb.	コナラ	◇	*	◎
26 Ulmaceae ニレ科	82	<i>Aphanathe aspera</i> (Thunb.) Planch.	ムクノキ	◇		○
	83	<i>Zelkova serrata</i> (Thunb.) Makino	ケヤキ	◇	*	◎
27 Moraceae クワ科	84	<i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.	コウゾ	◇	*	○
	85	<i>Fatoua villosa</i> (Thunb.) Nakai	クワクサ	◇		
	86	<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマクワ	◇	*	◎

科名	番号	学名	植物名	1998/6/7	1997/5/31	1996/6/15の生育量
28 Urticaceae イラクサ科	87	<i>Boehmeria tricuspis</i> (Hance) Makino, paraspicata Nakai	ワルバコアカソ	◇	*	◎
	88	<i>Boehmeria spicata</i> (Thunb.) Thunb.	コアカソ		*	◎
	89	<i>Elatostema umbellatum</i> Blume var. <i>majus</i> Maxim.	ウラボミソウ	◇	*	◎
	90	<i>Pellonia minima</i> Makino	サソシヨウソウ	◇		
	91	<i>Villebrunea frutescens</i> (Thunb.) Blume	イワガネ	◇		
29 Aristolochiaceae ウラボスズクサ科	92	<i>Asarum sieboldii</i> Miq.	ウラボサイシン			○
30 Polygonaceae タデ科	93	<i>Polygonum cuspidatum</i> Sieb. et Zucc.	イタドリ (表面に光沢がない)	●	*	◎
	94	<i>Polygonum debile</i> Meisn.	ミヤマタニソバ	◇	*	○
	95	<i>Polygonum filiforme</i> Thunb.	ミズヒキ	◇	*	○
	96	<i>Polygonum filiforme</i> Thunb. var. <i>neo-filiforme</i> (Nakai) Ohwi	シソミズヒキ	◇	*	
	97	<i>Polygonum nepalense</i> Meisn.	タニソバ	◇	*	◎
	98	<i>Polygonum thunbergii</i> Sieb. et Zucc.	ミゾソバ	◇	*	◎
	99	<i>Rumex acetosa</i> Linn.	スイバ		*	◎
31 Caryophyllaceae ナデシコ科	100	<i>Cerastium holosteoides</i> Fries var. <i>hallaisanense</i> (Nakai) Mizushima	ミニナグサ	◇		
	101	<i>Cucubalus baccifer</i> Linn. var. <i>japonicus</i> Miquel	ナンバンハコベ	◇		△
	102	<i>Dianthus superbus</i> Linn. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) Williams	カワラナデシコ			△
	103	<i>Stellaria aquatica</i> (Linn.) Scop.	ウシハコベ		*	
	104	<i>Stellaria media</i> (Linn.) Villars	コハコベ		*	○
32 Cercidiphyllaceae カツラ科	105	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.	カツラ	◇	*	◎

科名	番号	学名	植物名	1998/6/7	1997/5/31	1996/6/15の生育量
33 Ranunculaceae キンポウゲ科	薬 106	<i>Actaea asiatica</i> Hara	ルイヨウシヨウマ			○
	107	<i>Cimicifuga acerina</i> (Sieb. et Zucc.) C. Tanaka	オオバシヨウマ	◇	*	○
	薬 108	<i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk.	カラシナシヨウマ		*	○
	109	<i>Clematis apifolia</i> DC.	ホタツツル	◇	*	○
	110	<i>Clematis japonica</i> Thunb.	ハンシヨウツル	◇	*	○
	薬 111	<i>Coptis japonica</i> (Thunb.) Makino var. <i>dissecta</i> (Yatabe) Nakai	セリバネウレン	●	*	○
	薬 112	<i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.	ウマノアシガタ	◇	*	○
	113	<i>Ranunculus quepaertensis</i> (Le Yelle) Nakai	キツネノボタン (コキツネノボタン?)	◇	*	○
	薬 114	<i>Thalictrum minus</i> Linn. var. <i>hypoleucum</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	アキカラマツ	◇	*	○
	34 Lardizabalaceae アケビ科	薬 115	<i>Akebia quinata</i> (Thunb.) Decalsne	アケビ	◇	*
116	<i>Akebia trifoliata</i> (Thunb.) Koizt.	ミツバアケビ	◇	*	○	
35 Berberidaceae メギ科	薬 117	<i>Berberis thunbergii</i> DC.	メギ	●		○
	薬 118	<i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	ルイヨウボタン			○
	薬 119	<i>Epimedium grandiflorum</i> Morr. var. <i>thunbergianum</i> (Miq.) Nakai	イカリソウ	◇	*	○
	薬 120	<i>Epimedium sempervirens</i> Nakai	トキワイカリソウ			○
	36 Magnoliaceae モクレン科	121	<i>Magnolia obovata</i> Thunb.	ホオノキ	◇	*
122		<i>Schisandra repanda</i> (Sieb. et Zucc.) Randlk.	マツヅサ	◇	*	○
37 Lauraceae クスノキ科		123	<i>Lindera erythrocarpa</i> Makino	カナクギノキ	◇	*
	124	<i>Lindera obtusiloba</i> Blume	ダンコウバイ	◇	*	◎
	125	<i>Lindera sericera</i> (Sieb. et Zucc.) Blume var. <i>glabrata</i> Blume	ウスダケクロモジ	◇	*	○
	126	<i>Lindera umbellata</i> Thunb.	クロモジ	◇	*	○
	127	<i>Parabenzoin praecox</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai	アアラヤン		*	◎
38 Papaveraceae ケシ科	128	<i>Corydalis pallida</i> (Thunb.) Pers.	フウロケマン (ツクシキケマン)	◇		○
	129	<i>Macleaya cordata</i> (Willd.) R. Br.	タケニグサ	◇	*	◎